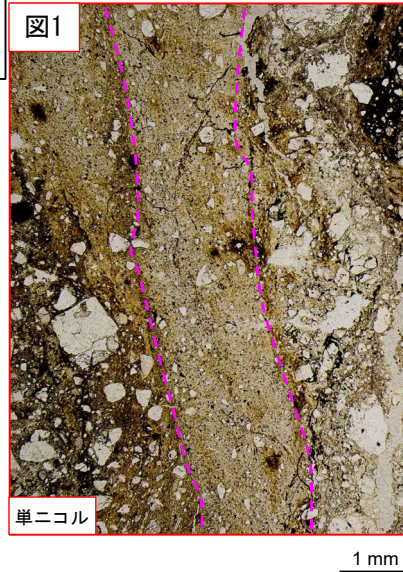
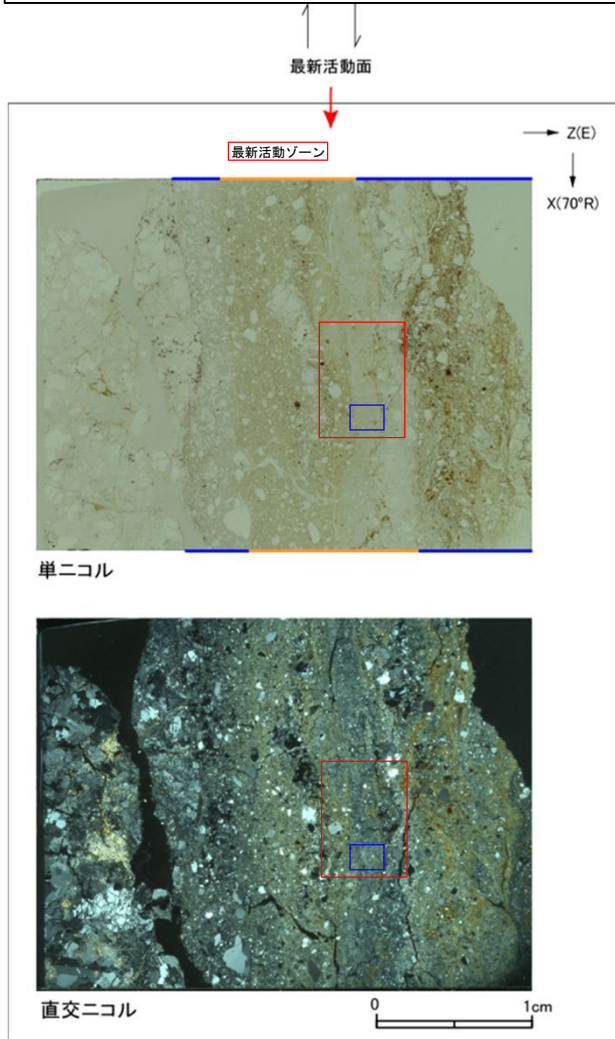
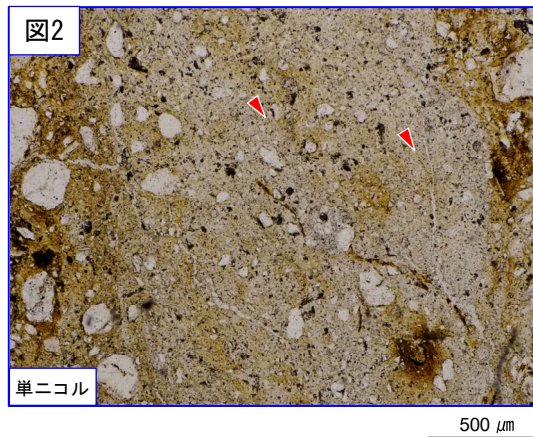
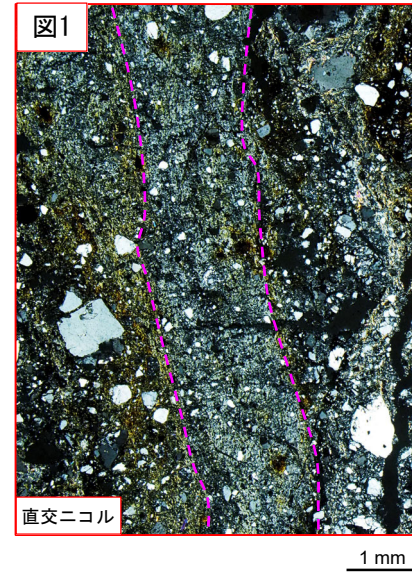


H27-B-1 深度47.40~47.51m 非モデル化破碎部 (2/2)

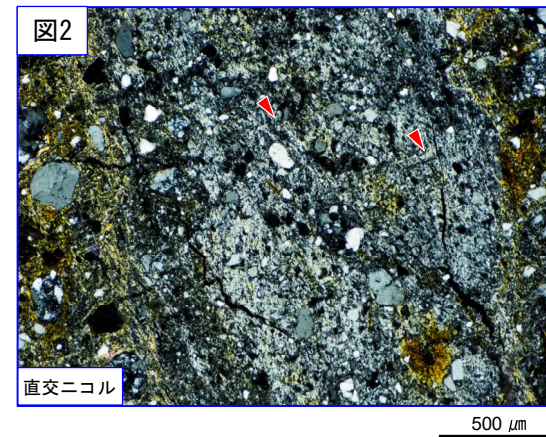
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な範囲を示す。



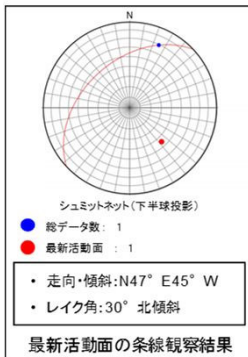
赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。



H27-B-1 深度49.17~49.22m 非モデル化破砕部 (1/2)

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度49.17m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 組織は漸移的に変化する。
- 岩片は少ない。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- シグソー状の角礫群が認められる。

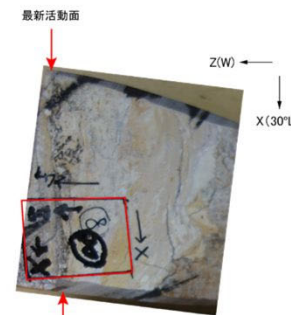


最新活動面

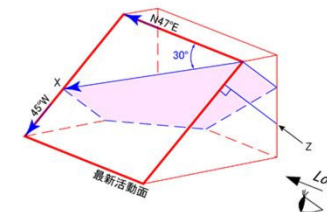
最新活動面の条線観察結果

最新活動ゾーン

最新活動面

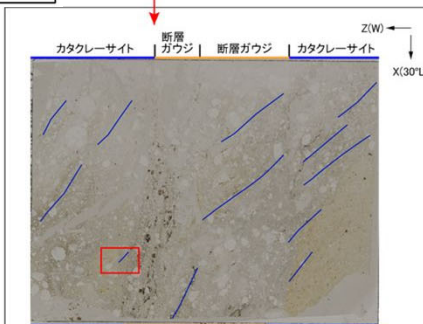
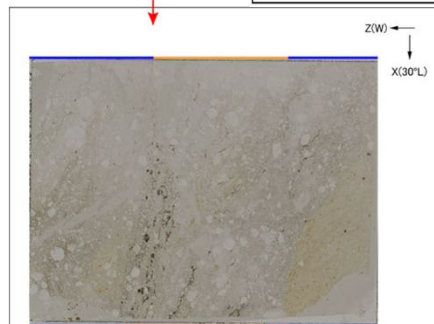


薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

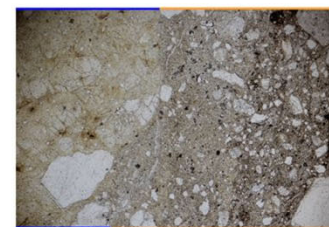


走向・傾斜 N47°E 45°W

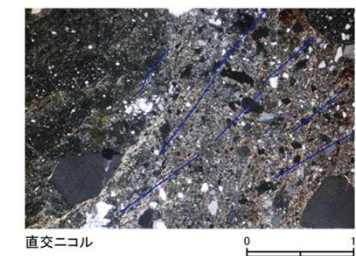
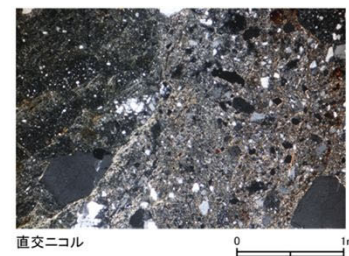
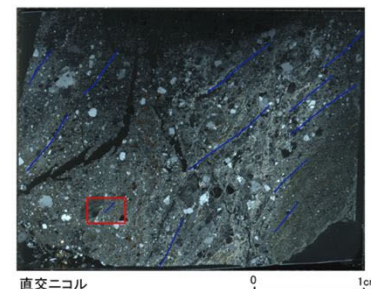
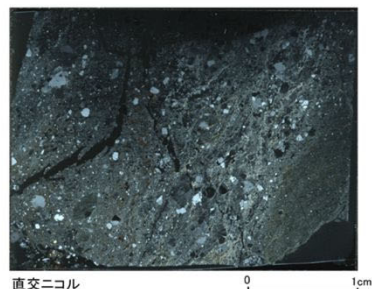
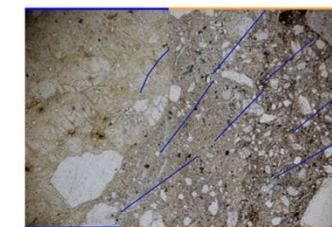
X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大



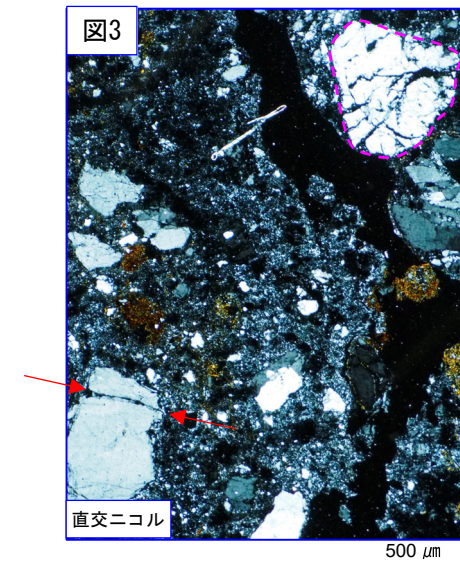
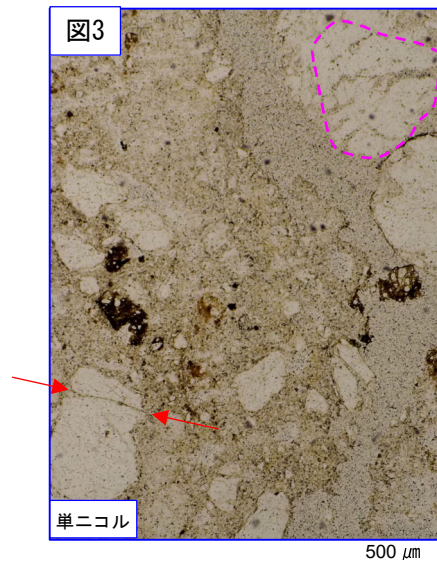
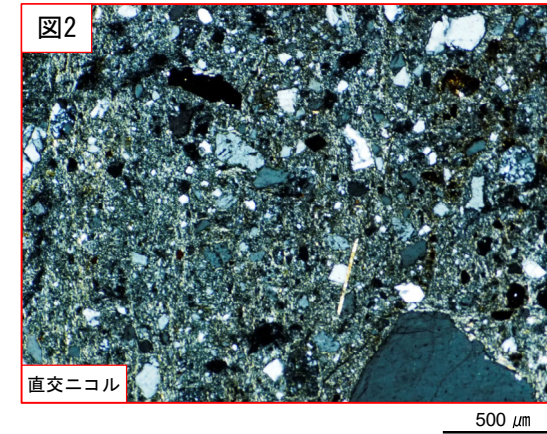
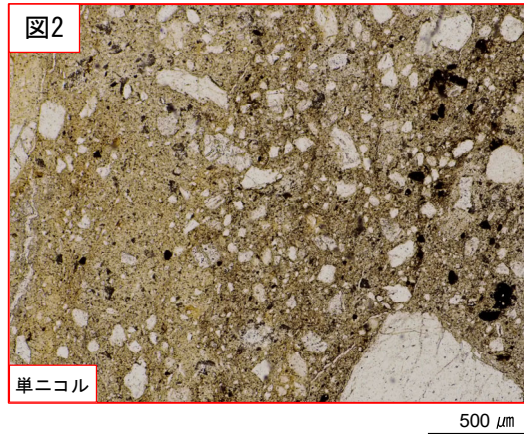
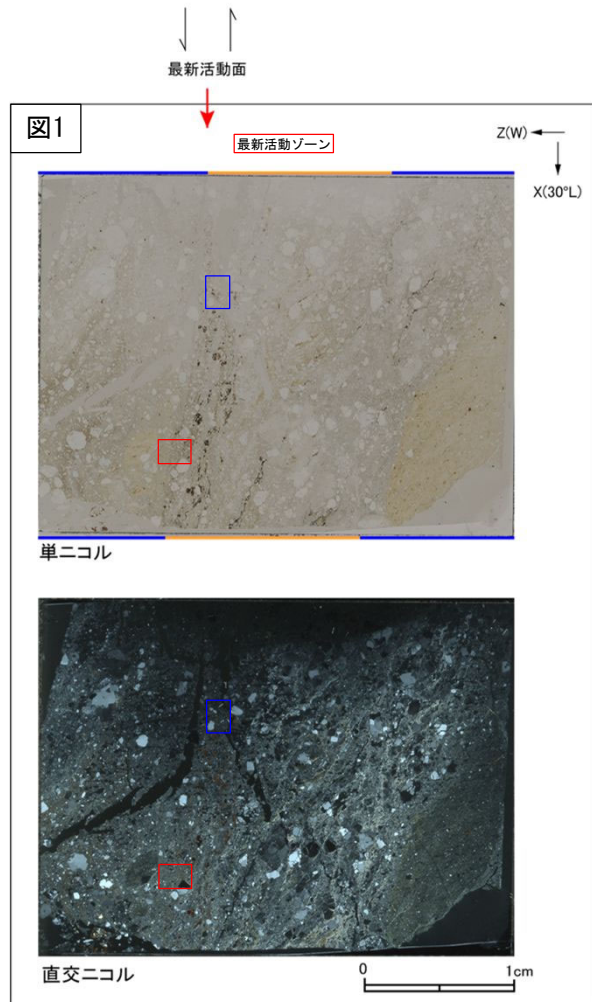
赤枠内の拡大



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-1 深度49.17~49.22m 非モデル化破碎部 (2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 組織は漸移的に変化する。(図1)
- 岩片は少ない。(図3)
- 角ばった岩片が多い。(図3)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)

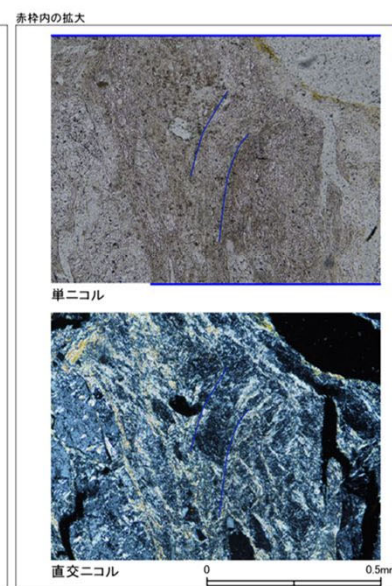
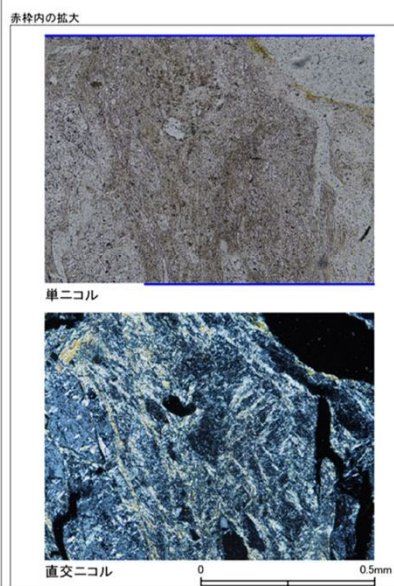
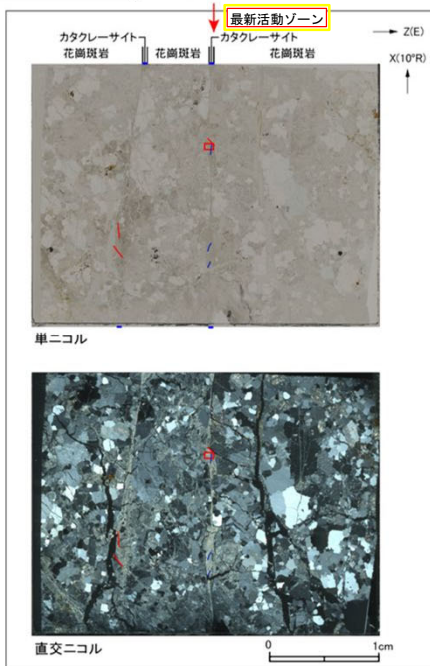
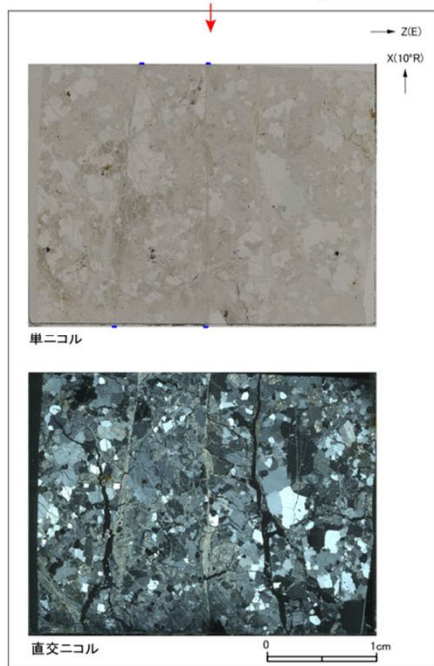
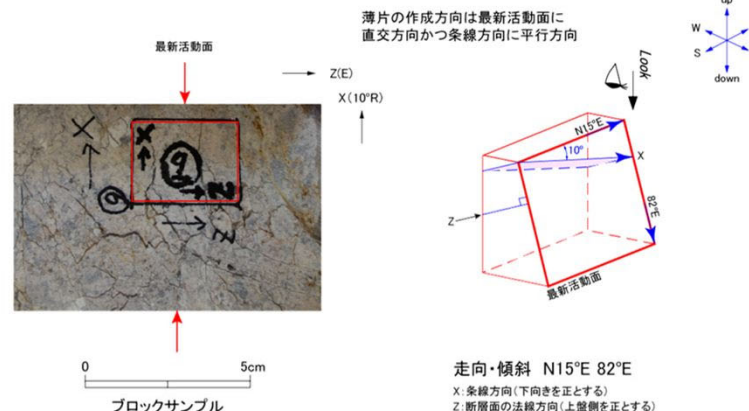
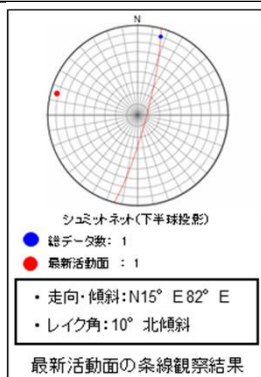


赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。
 破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

H27-B-1 深度52.72~52.81m 非モデル化破砕部 (1/2)

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度52.81m)の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

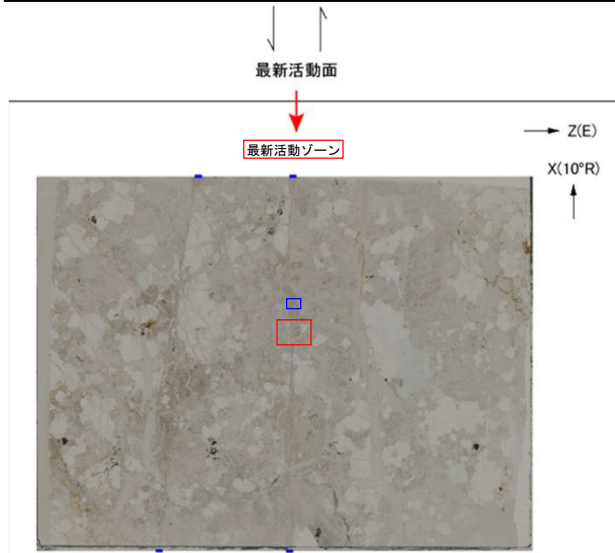
- 岩片は少ない。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
- 角ばった岩片が多い。
- シグソー状の角礫群が認められる。



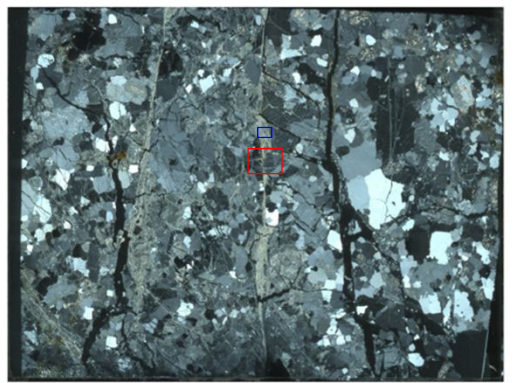
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-1 深度52.72~52.81m 非モデル化破碎部 (2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 岩片は少ない。(図2)
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
 - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。(図1)
 - 角ばった岩片が多い。(図2)
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)

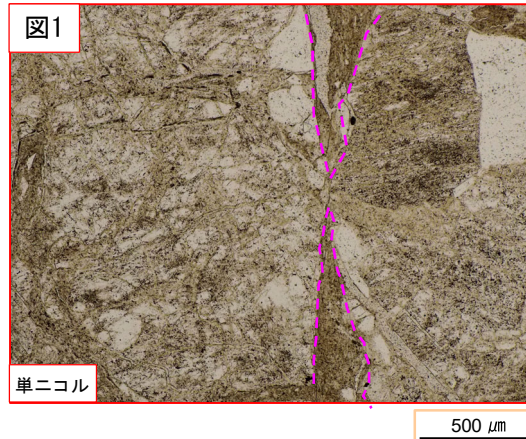


単ニコル

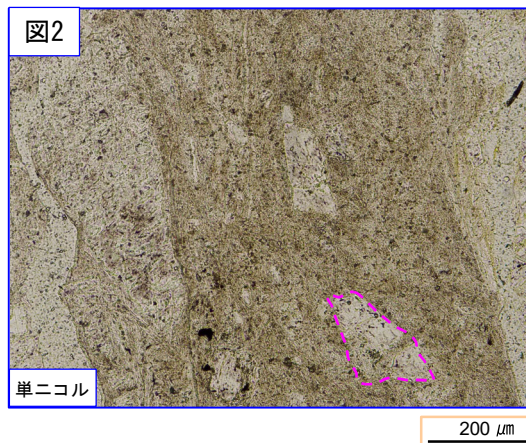


直交ニコル

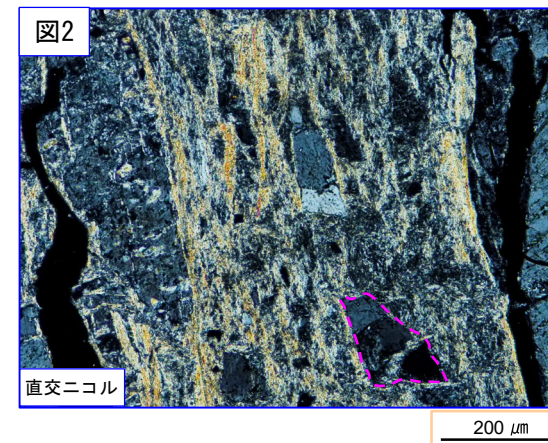
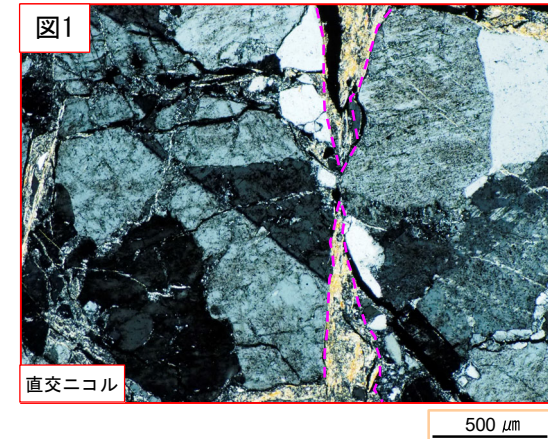
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



破線は粘土状部の分布範囲を示す。

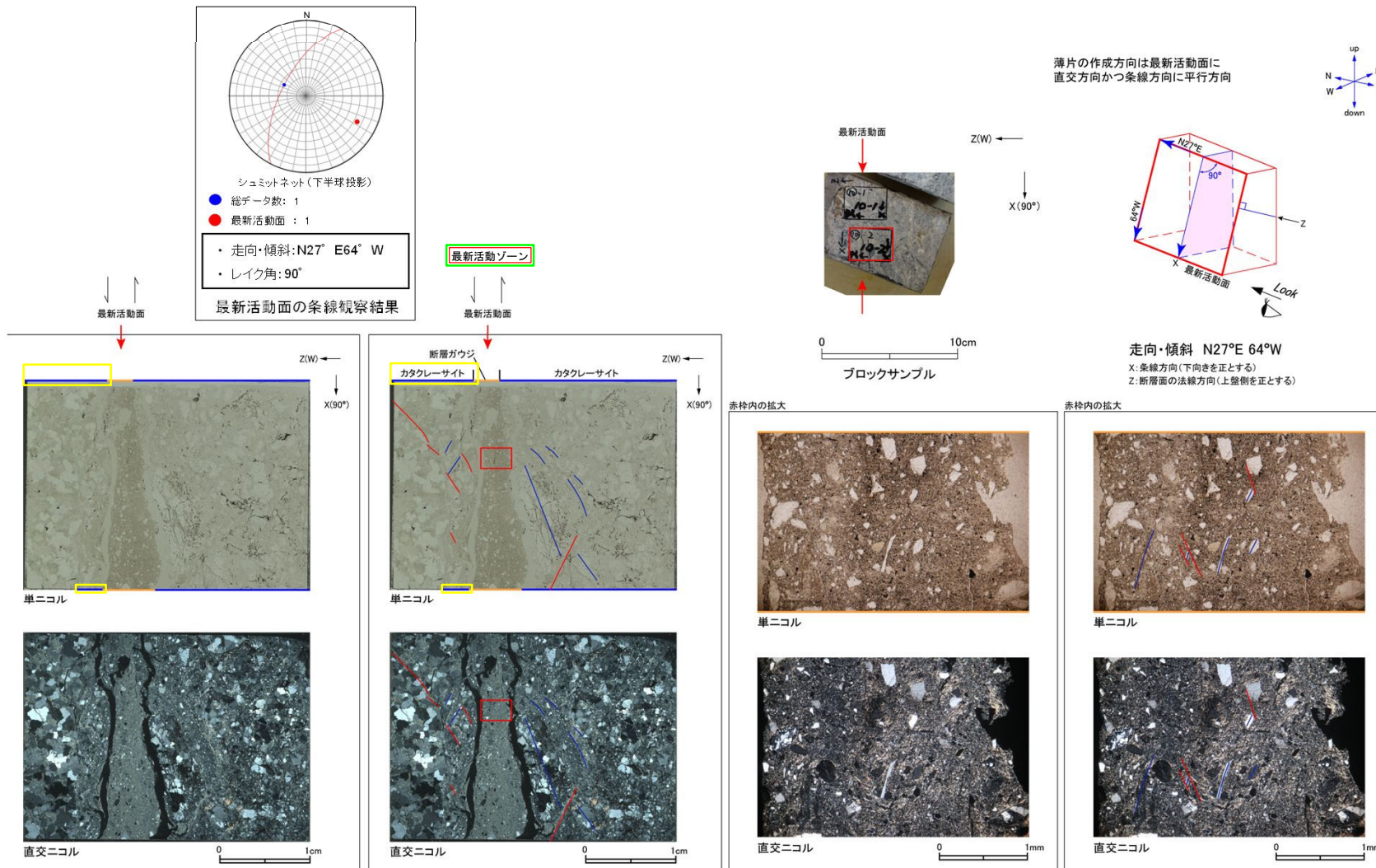


破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。



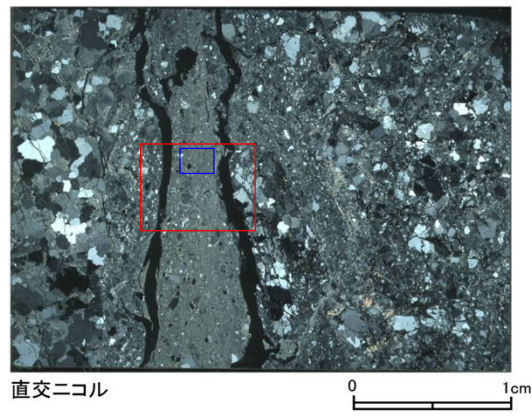
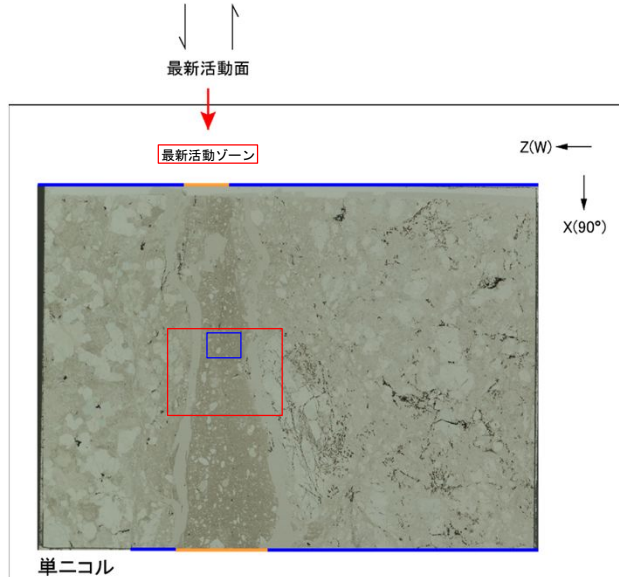
H27-B-1 深度53.17~53.22m 非モデル化破碎部 (1/2)

- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度53.17m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。

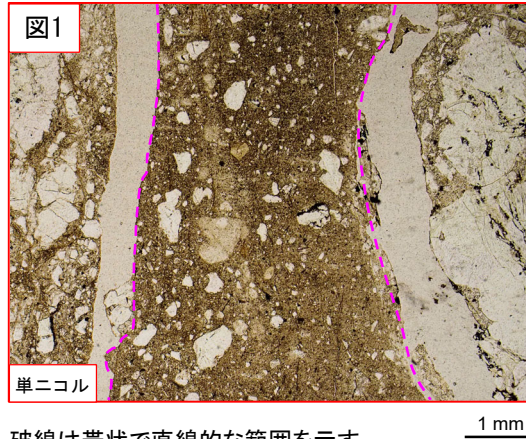


H27-B-1 深度53.17~53.22m 非モデル化破碎部 (2/2)

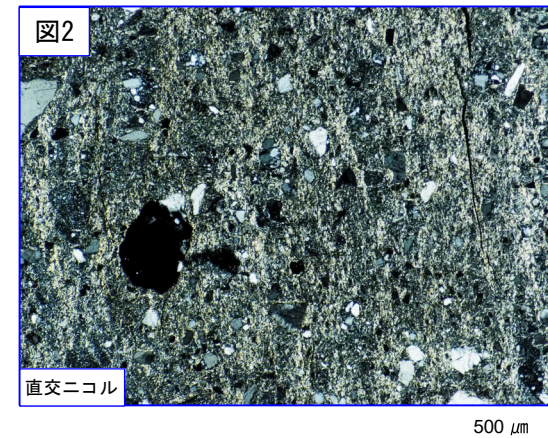
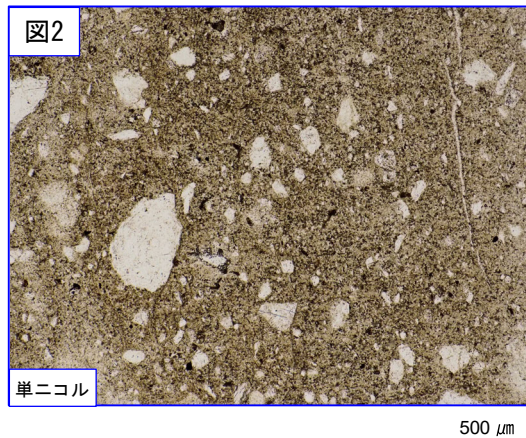
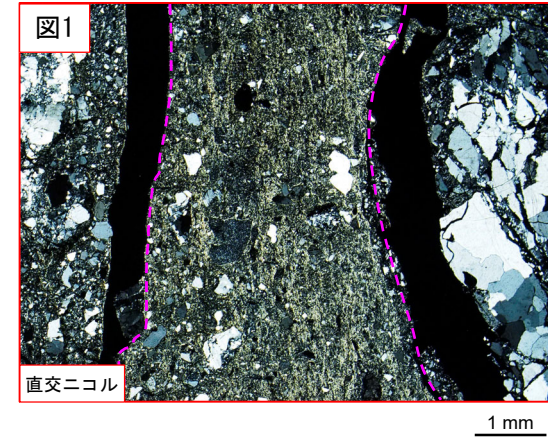
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
 - 岩片は少ない。(図2)
 - 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



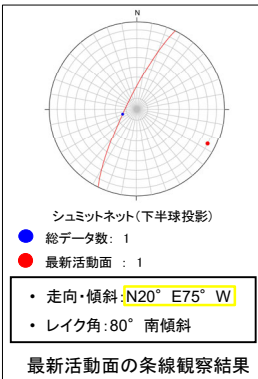
破線は帯状で直線的な範囲を示す。



H27-B-1 深度59.82~59.85m D-1破碎帯 (1/2)

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度59.85m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。

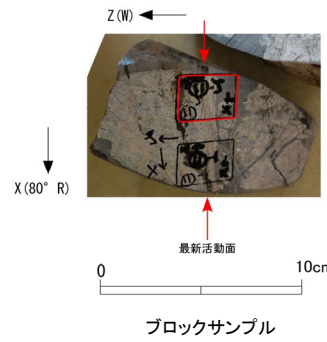


最新活動面

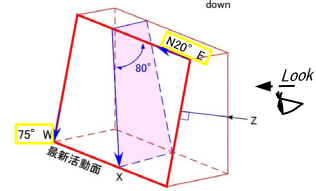
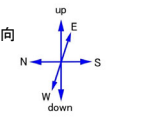
最新活動面の条線観察結果

最新活動ゾーン

最新活動面



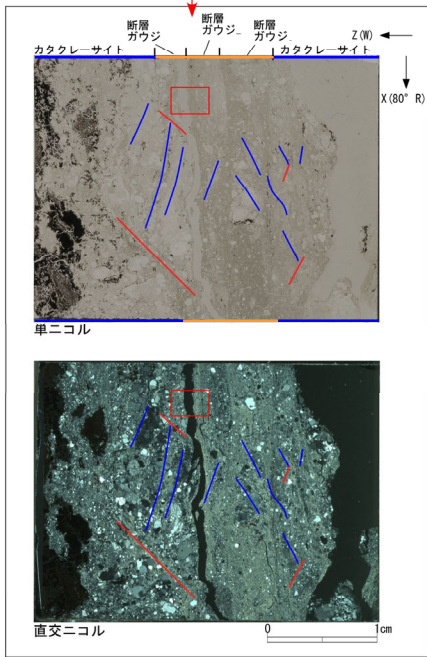
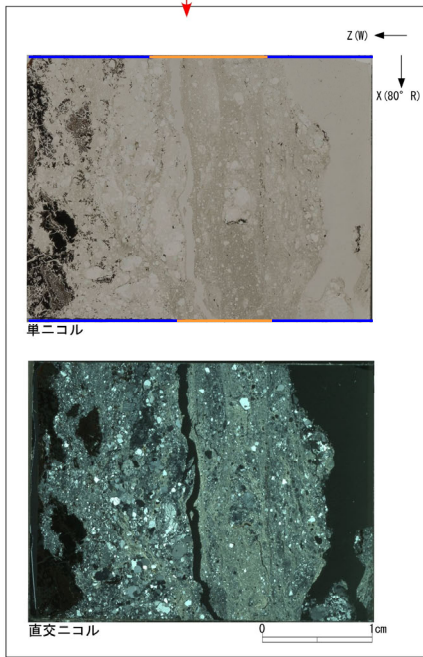
薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



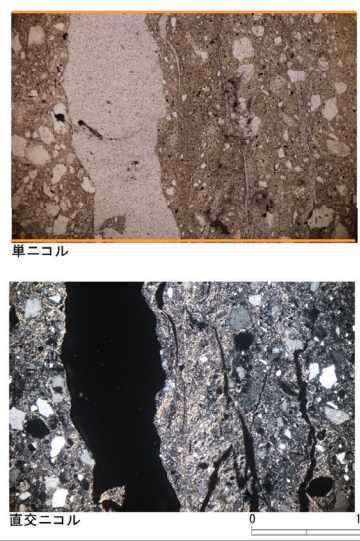
走向・傾斜 N20° E75° W

X: 条線方向(下向きを正とする)

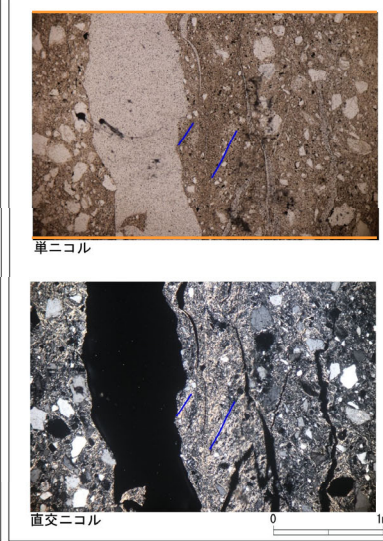
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大



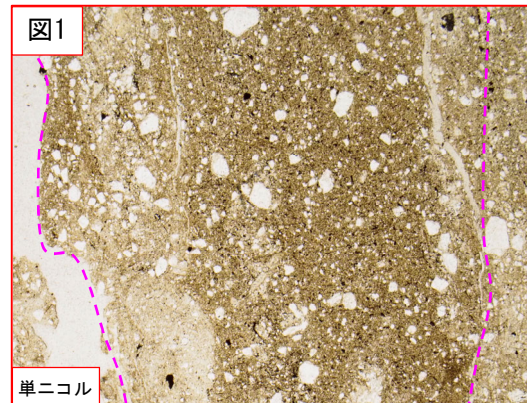
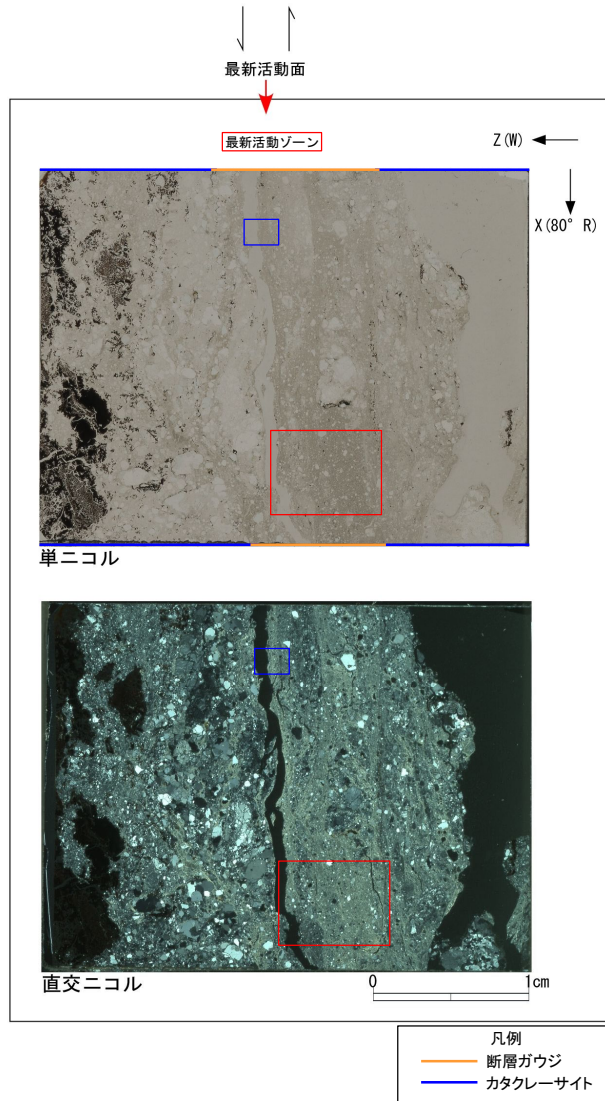
赤枠内の拡大



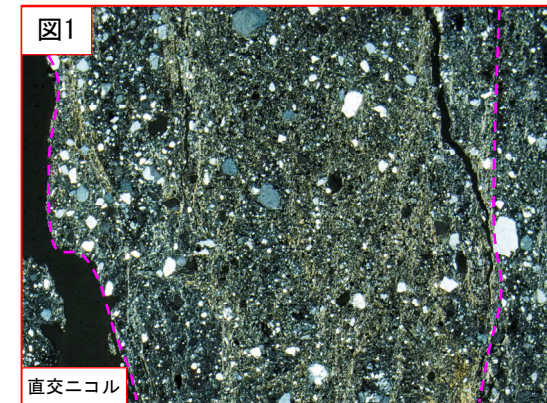
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-1 深度59.82~59.85m D-1破碎帯 (2/2)

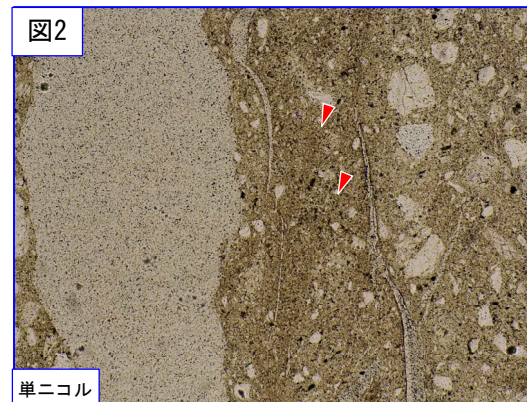
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



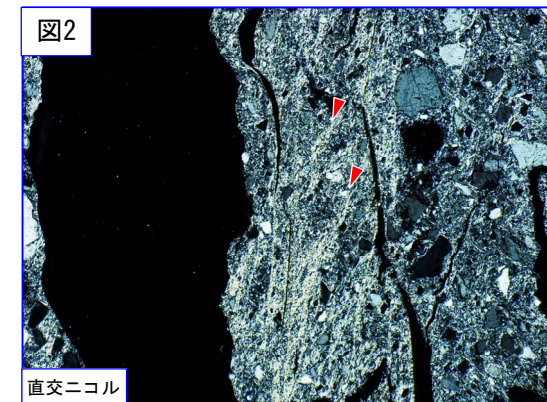
破線は帯状で直線的な範囲を示す。 1 mm



1 mm



500 μm

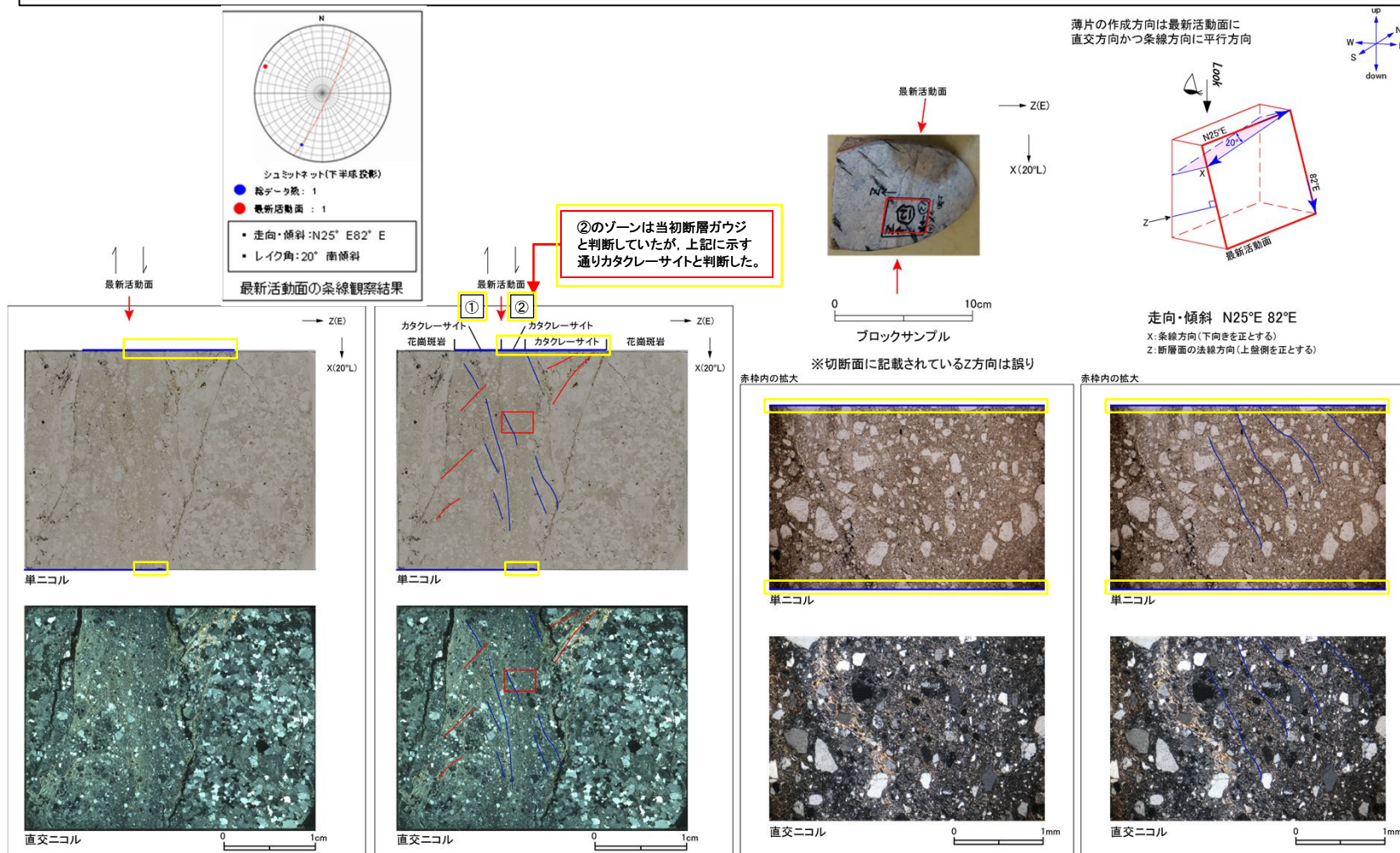


500 μm

赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。

H27-B-1 深度69.70~69.73m 非モデル化破碎部 (1/3)

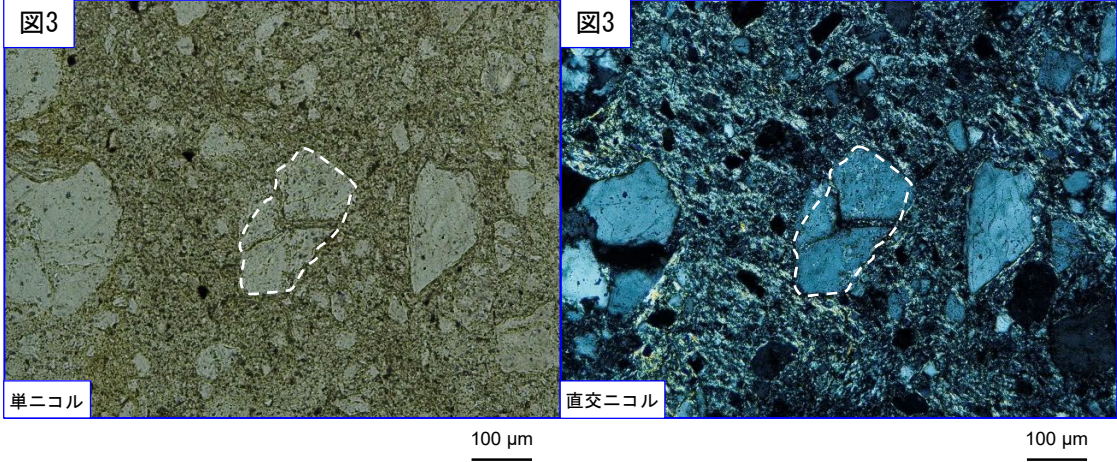
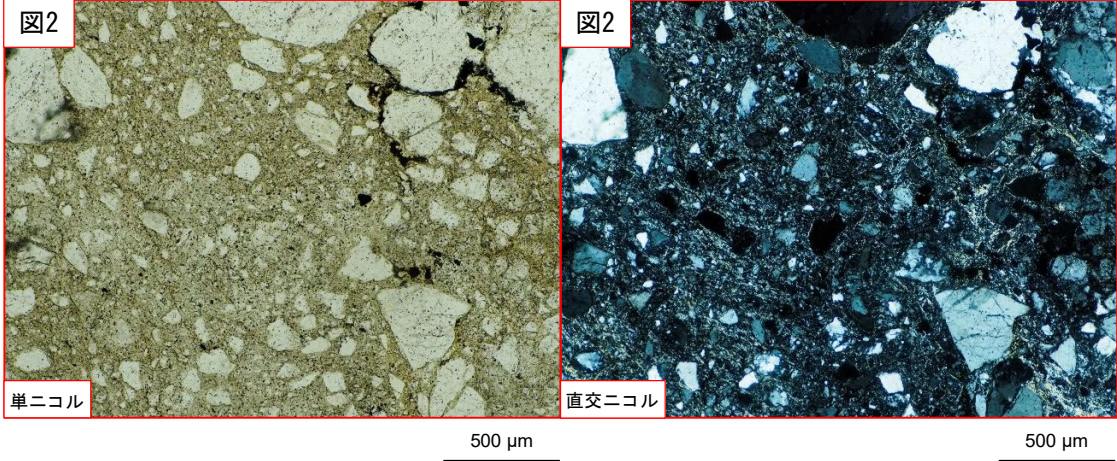
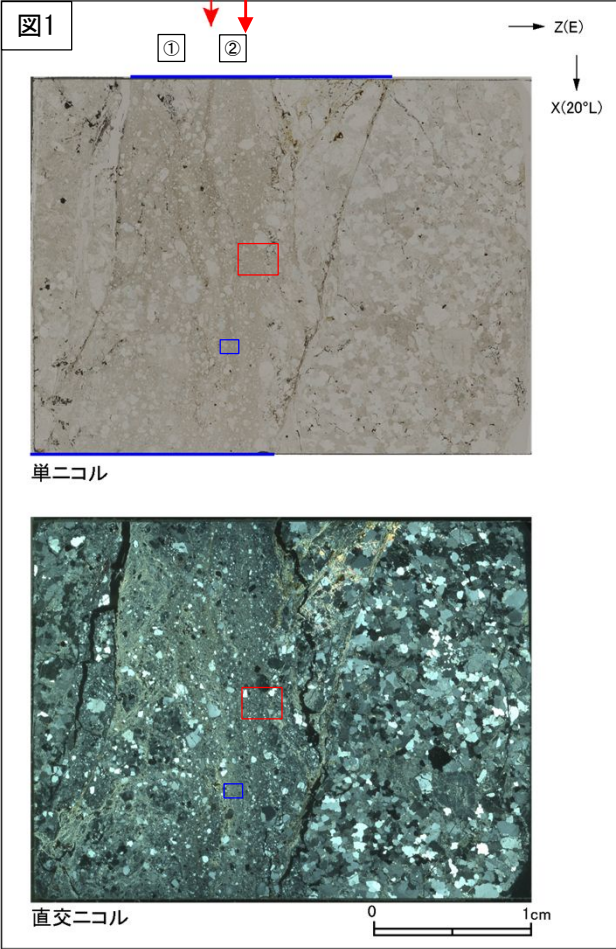
- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度69.70m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 - ・断層岩区分については、ゾーン(②)はカタクレーサイトと評価したゾーン(①)より細粒であり、破碎流動も比較的少ない。また、全体的に粘土鉱物が認められることから、断層ガウジと判断していた。(第833回 机上配布資料1)なお、ゾーン(①)にはジグソー状の角礫群などのカタクレーサイトと示す特徴が認められる。
 - ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、②のゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - 組織は漸移的に変化する。
 - 角ばった岩片が多い。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。
 - 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



H27-B-1 深度69.70~69.73m 非モデル化破碎部(2/3)

- ②のゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図2)
 - 組織は漸移的に変化する。(図1)
 - 角ばった岩片が多い。(図2)
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)

最新活動面
 ②のゾーンは当初断層ガウジと判断していたが、上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。

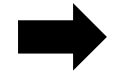
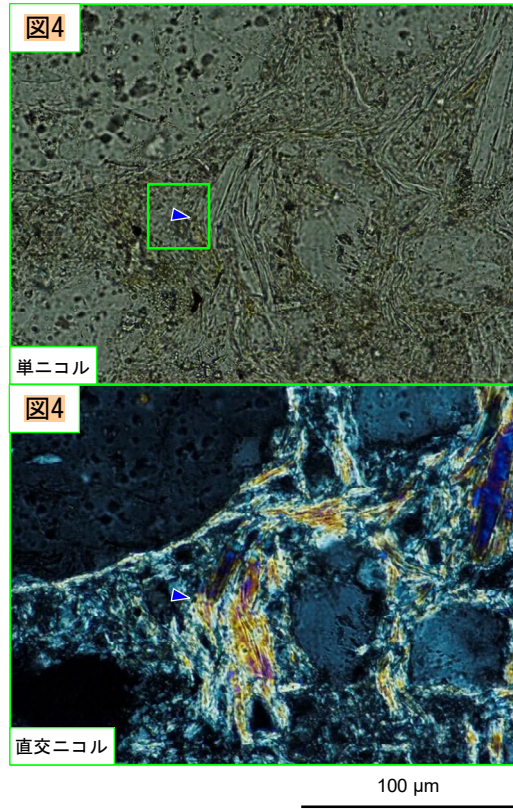
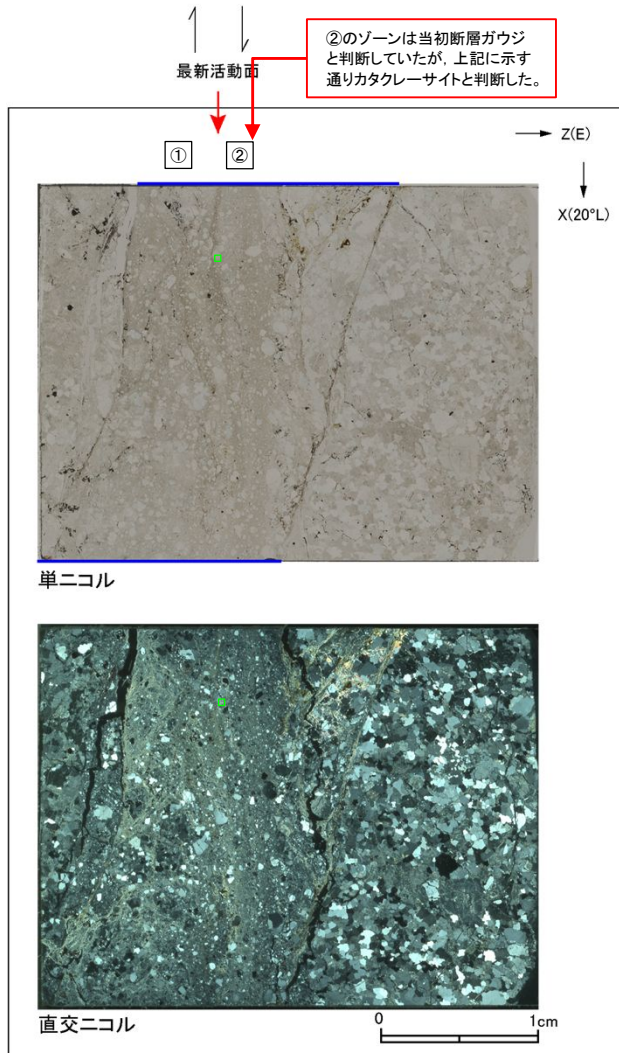


破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

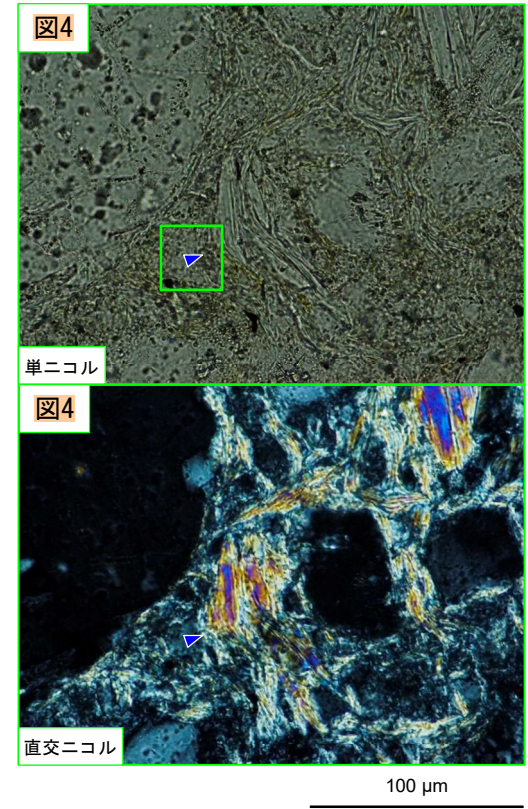
- 凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト

H27-B-1 深度69.70~69.73m 非モデル化破碎部(3/3)

・②のゾーンには、以下の特徴が認められる。
 ➤ 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



ステージを
反時計回りに
約27度回転



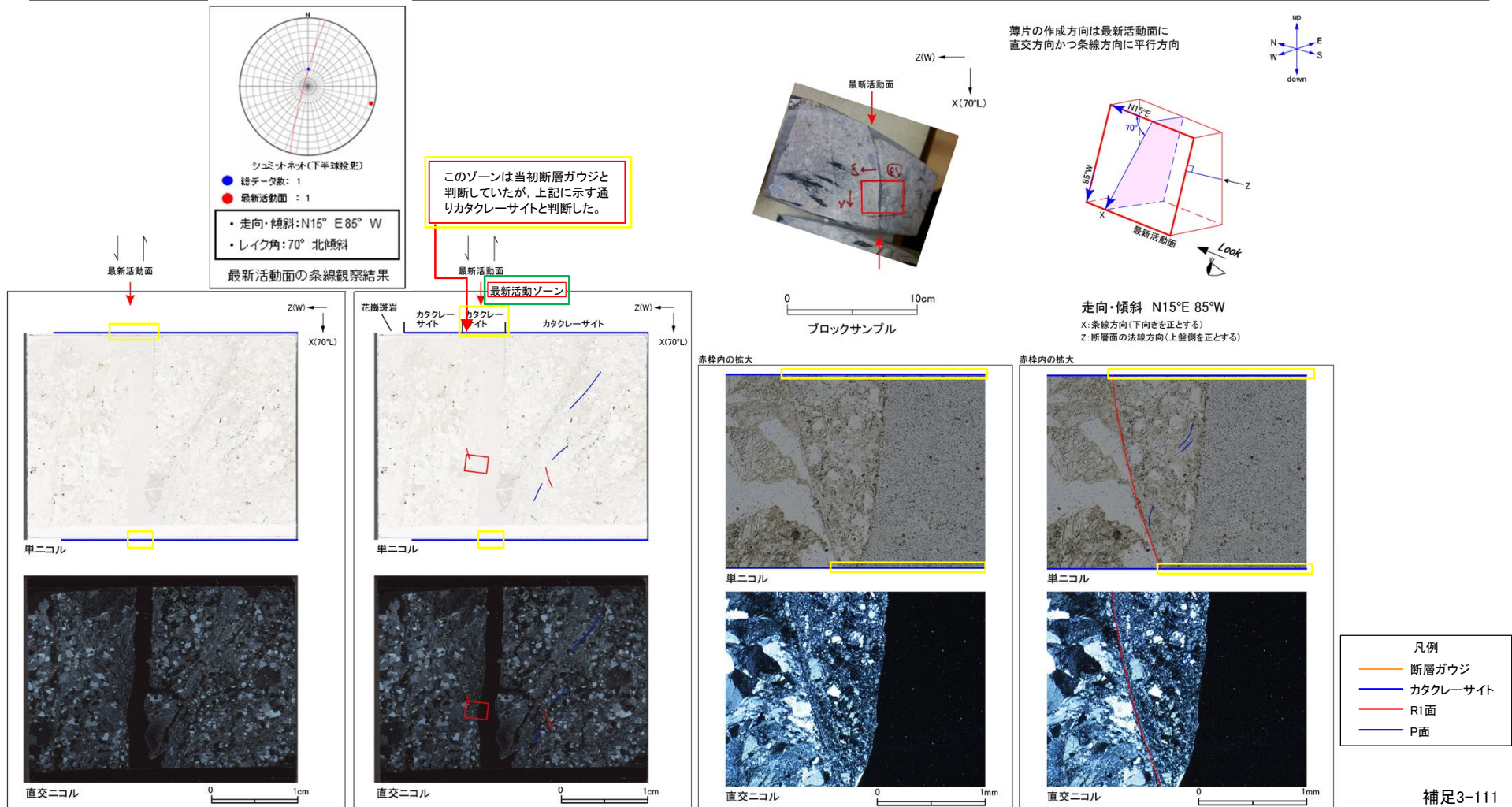
青矢印は屈曲箇所を示す。

青矢印は屈曲箇所を示す。

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

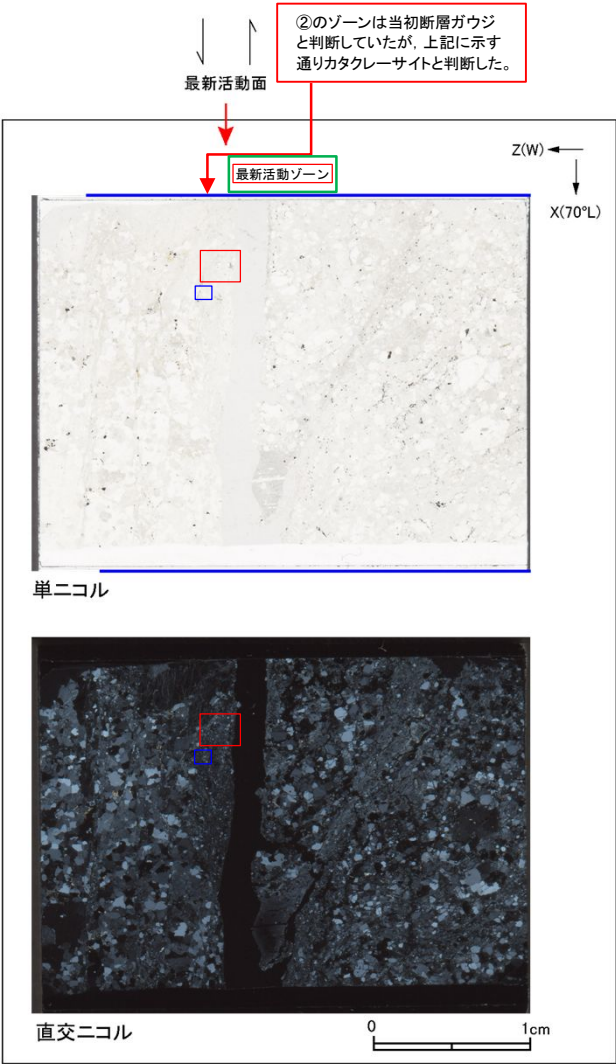
H27-B-1 深度74.36~74.50m 非モデル化破碎部 (1/2)

- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度74.40m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
 - ・断層岩区分については、最新活動ゾーンは周辺のカタクレーサイトのゾーンより細粒であり、局所的ではあるが幅6mm程度の範囲で粘土鉱物が若干認められることから、断層ガウジと判断していた。(第833回 机上配布資料1)
 - ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
 - 角ばった岩片が多い。
 - シングソー状の角礫群が認められる。

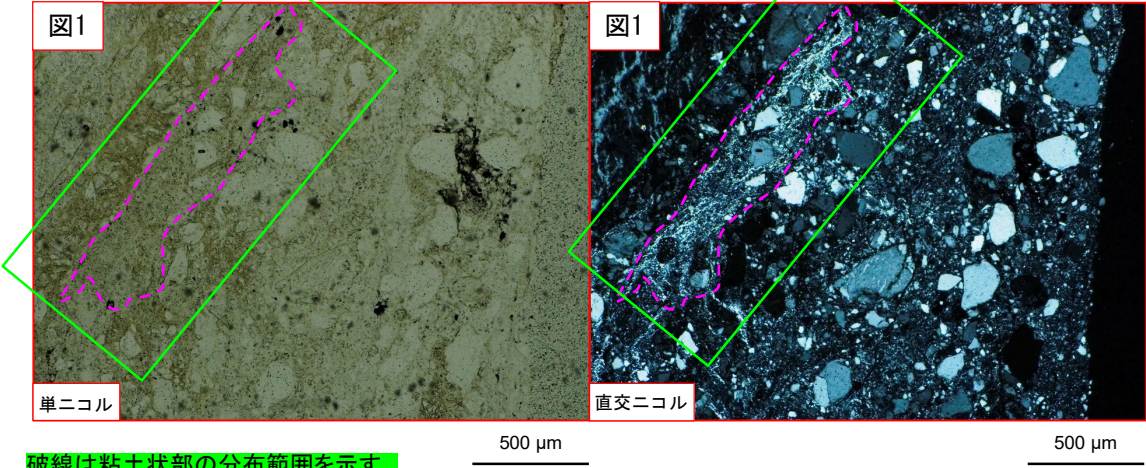


H27-B-1 深度74.36~74.50m 非モデル化破砕部(2/2)

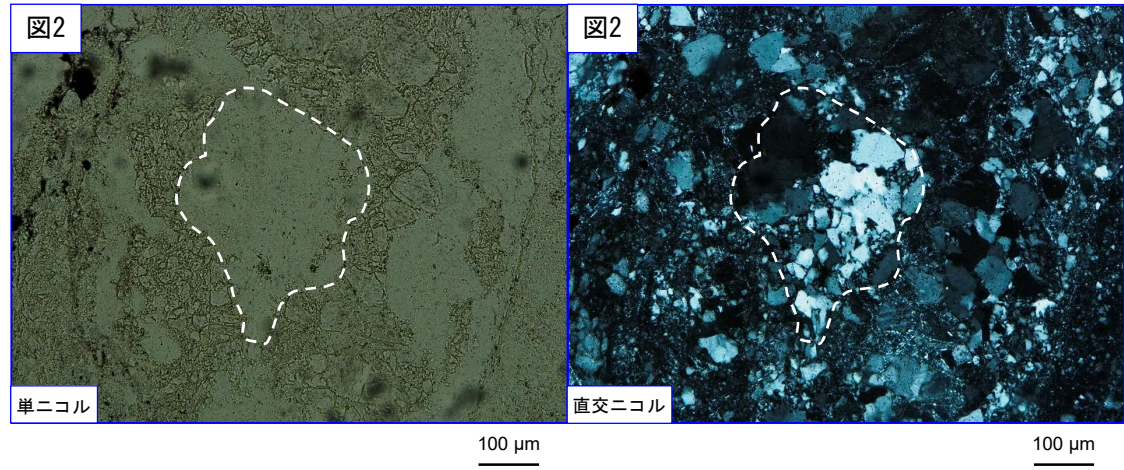
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
 - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。(図1)
 - 角ばった岩片が多い。(図1)
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



②のゾーンは当初断層ガウジと判断していたが、上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。



破線は粘土状部の分布範囲を示す。



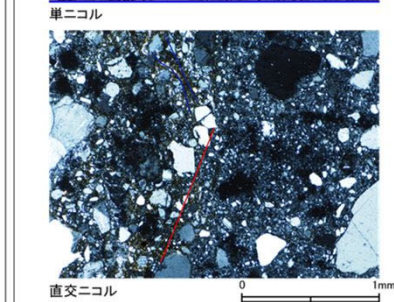
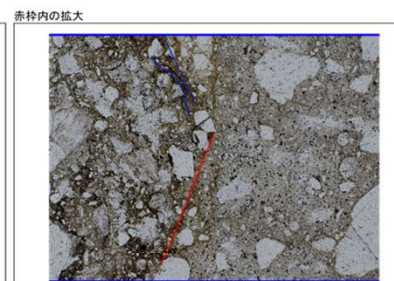
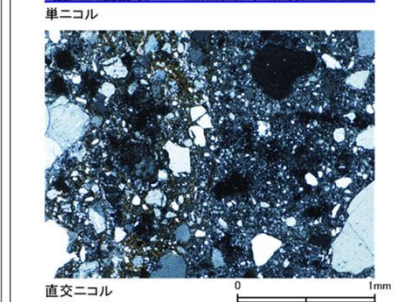
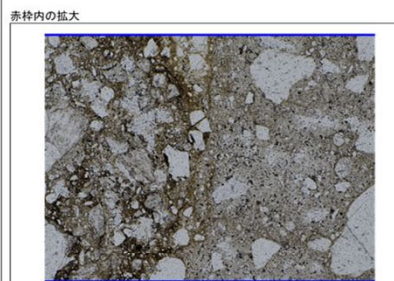
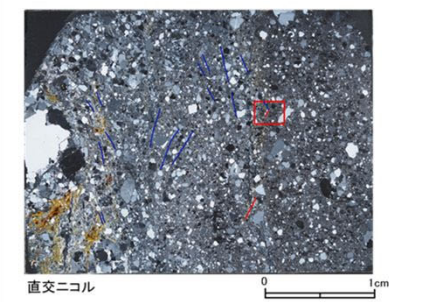
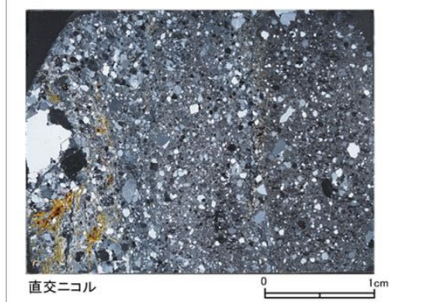
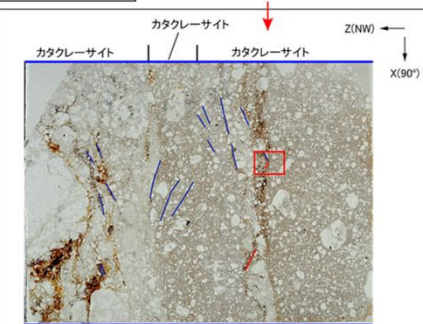
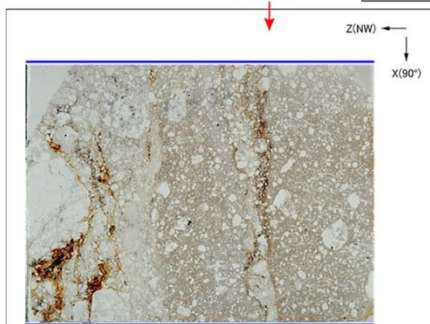
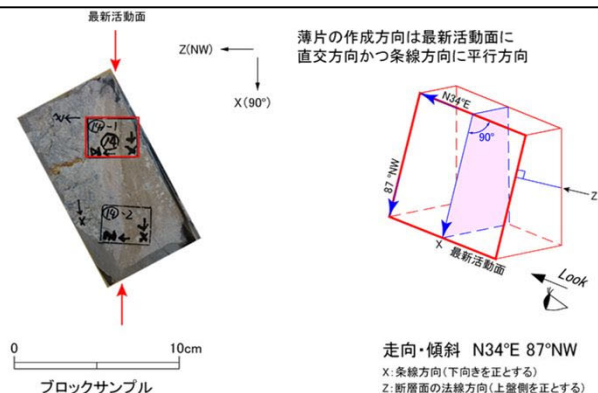
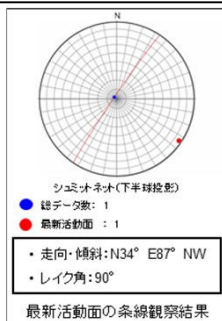
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

H27-B-1 深度75.57~76.00m 非モデル化破碎部 (1/3)

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度75.73m)の変位センスは、逆断層成分が卓越する。
・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。

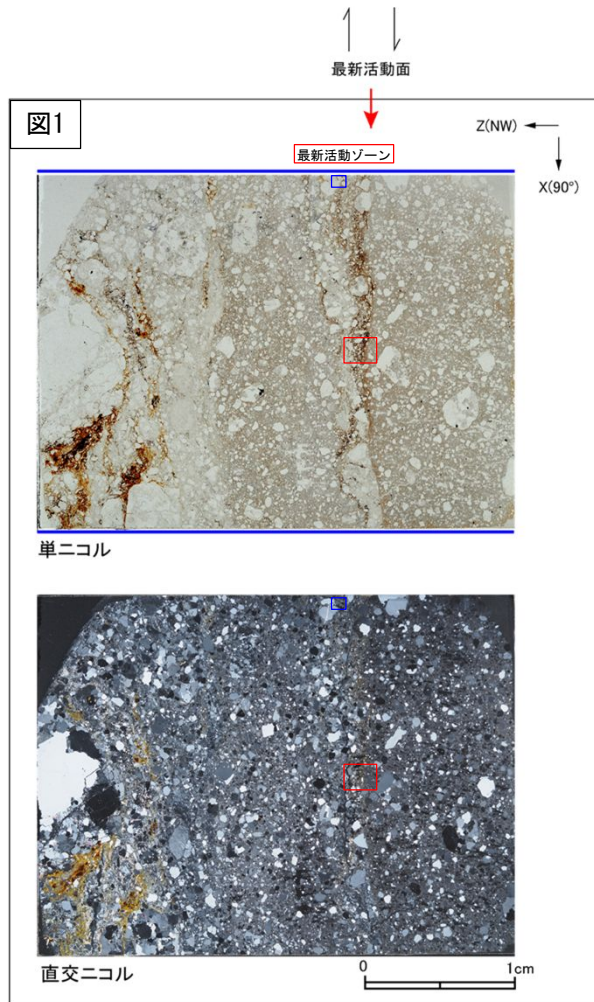
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 組織は漸移的に変化する。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- シグソー状の角礫群が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



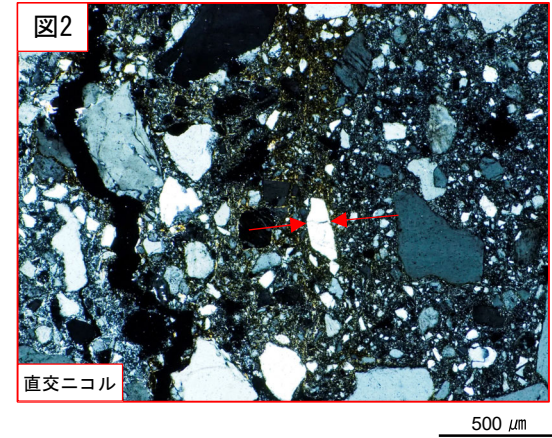
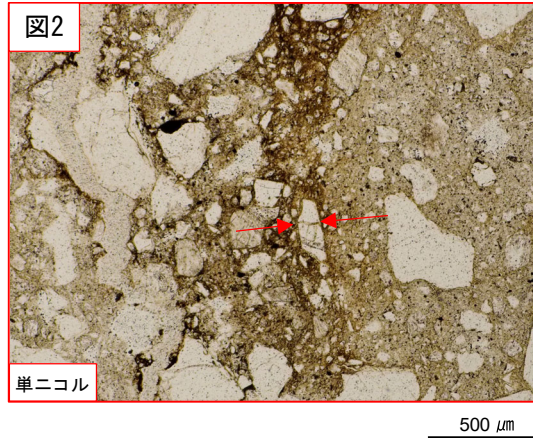
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-1 深度75.57~76.00m 非モデル化破碎部 (2/3)

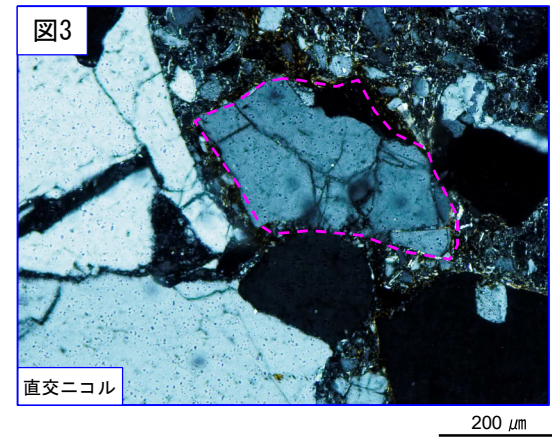
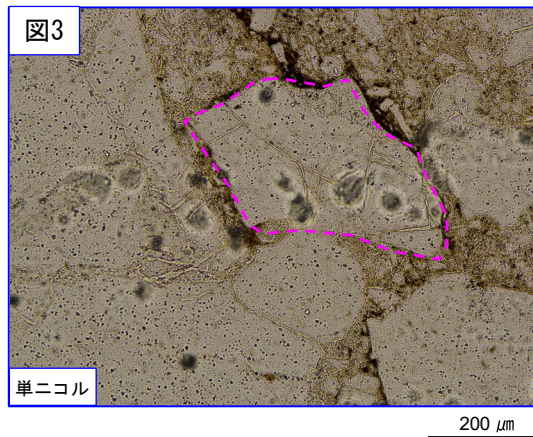
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図2)
 - 組織は漸移的に変化する。(図1)
 - 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
 - 角ばった岩片が多い。(図2)
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)



凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



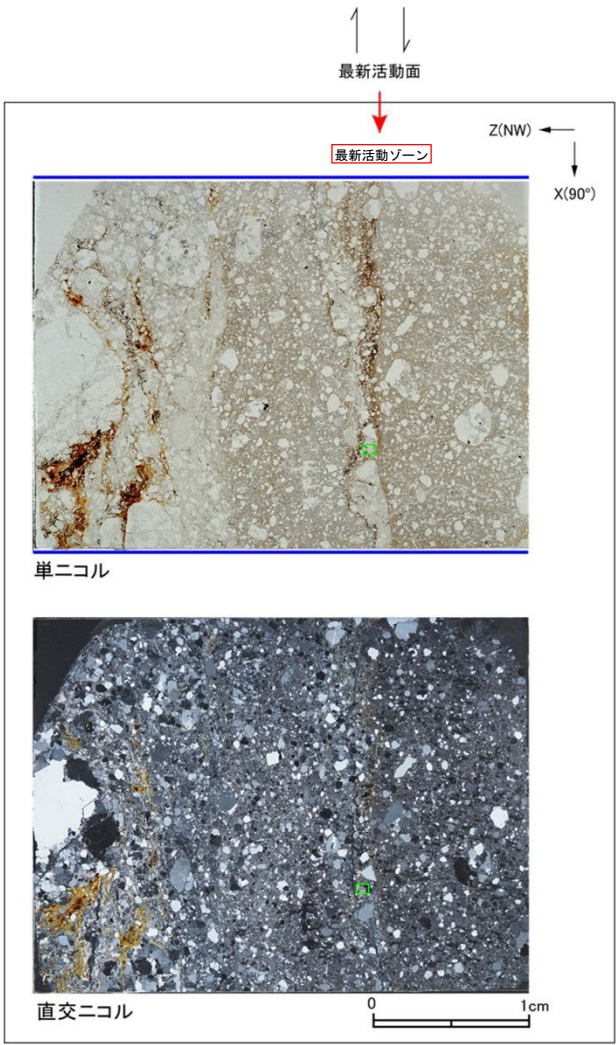
赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。



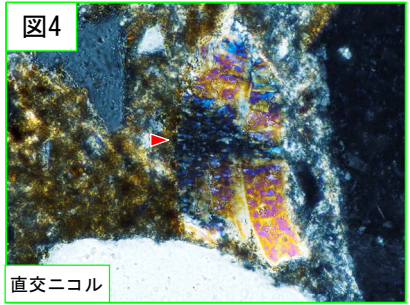
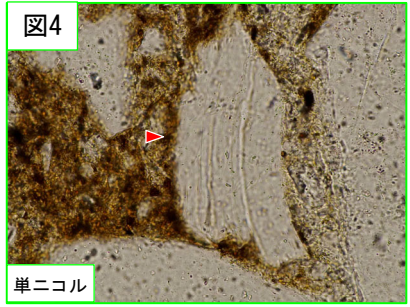
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

H27-B-1 深度75.57~76.00m 非モデル化破碎部 (3/3)

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 > 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



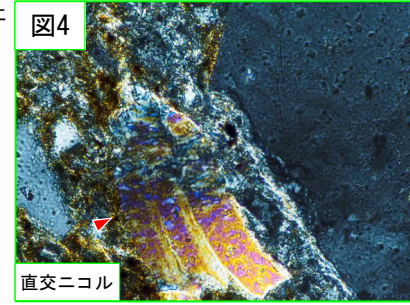
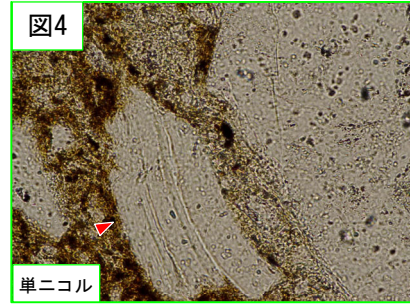
凡例
 — 断層ガウジ
 — カタクレーサイト



赤矢印は屈曲箇所を示す。 50 μm



ステージを反時計回りに
 約20度回転

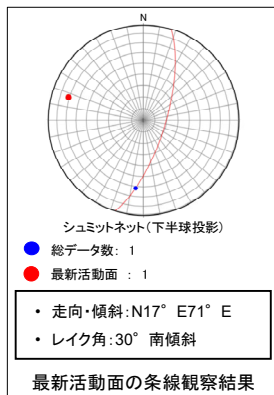


赤矢印は屈曲箇所を示す。 50 μm

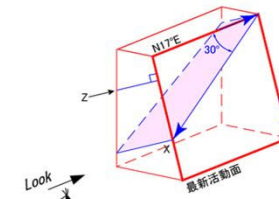
H27-B-1 深度78.72~78.87m 非モデル化破碎部 (1/2)

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度78.87m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

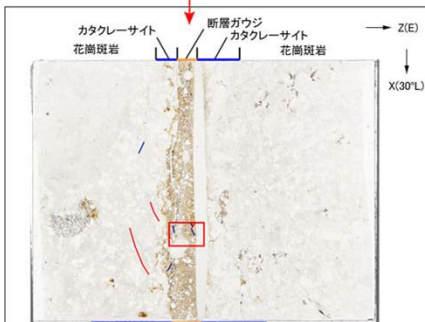
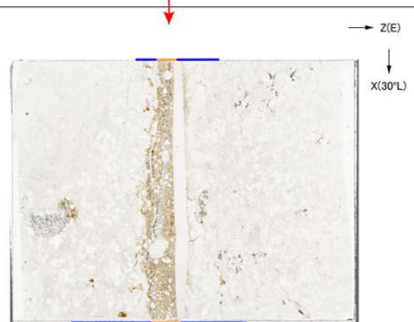


走向・傾斜 N17°E 71°E
 X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

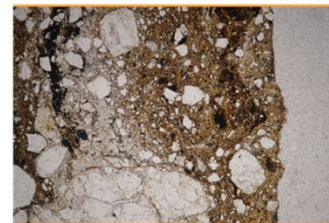
最新活動面

最新活動ゾーン

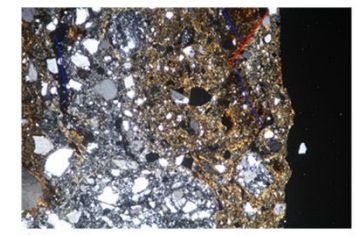
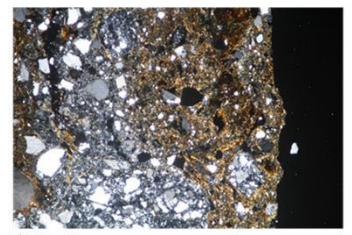
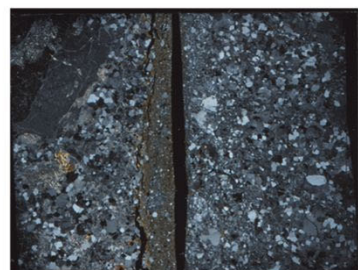
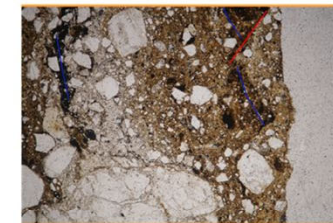
最新活動面



赤枠内の拡大



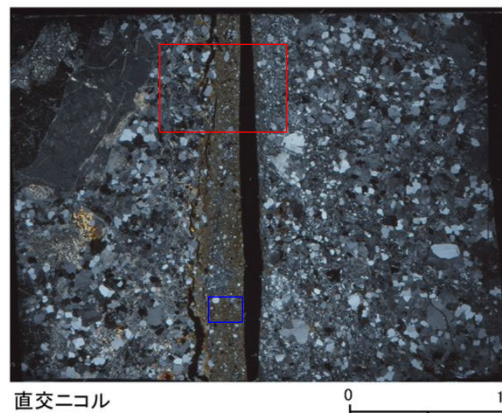
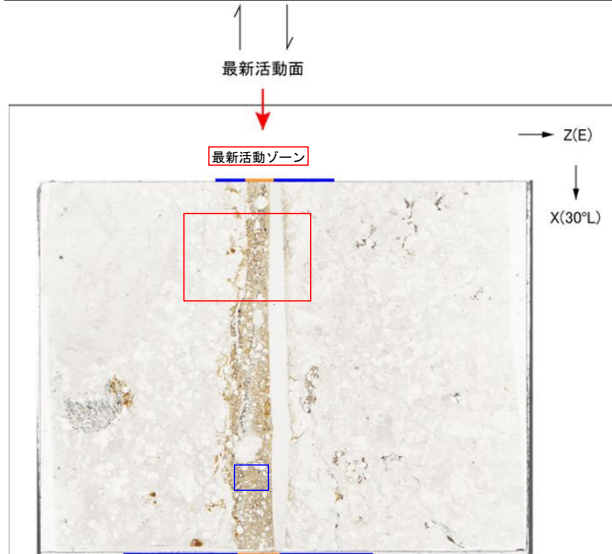
赤枠内の拡大



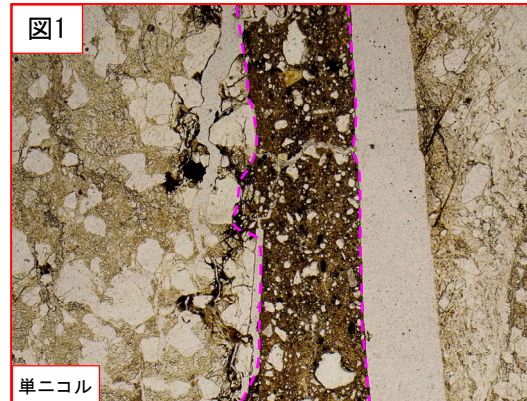
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-1 深度78.72~78.87m 非モデル化破碎部 (2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)

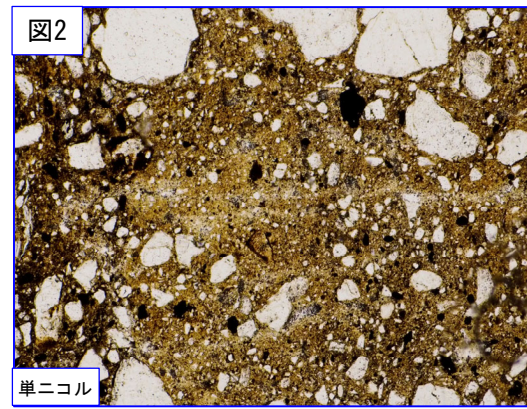


凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト

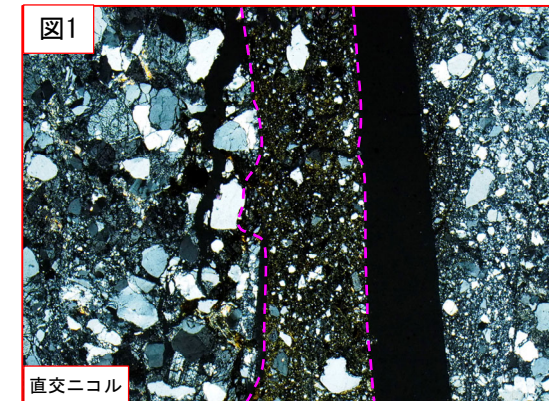


破線は帯状で直線的な範囲を示す。

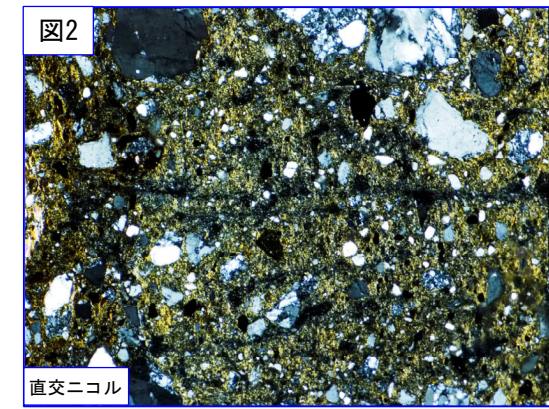
1 mm



500 μm



1 mm

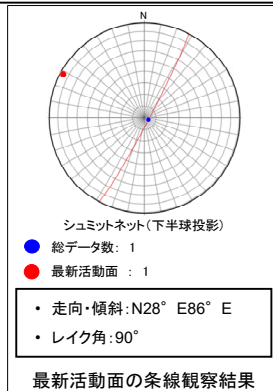


500 μm

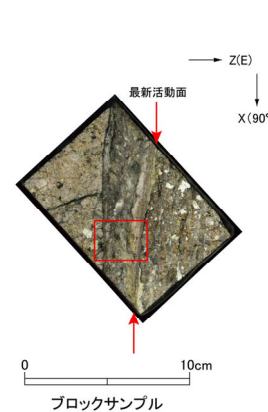
H27-B-1 深度85.38~85.41m f-b-1-16破砕帯 (1/3)

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度85.41m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

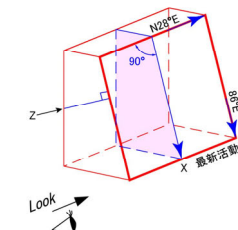
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



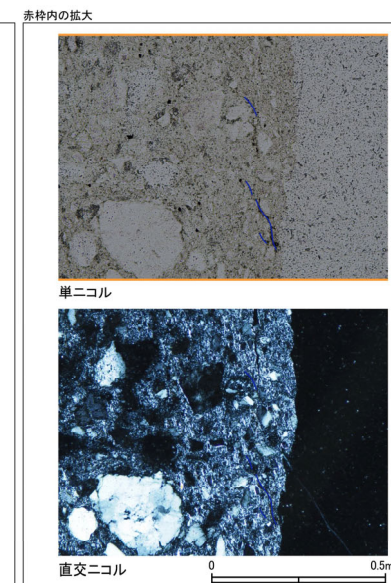
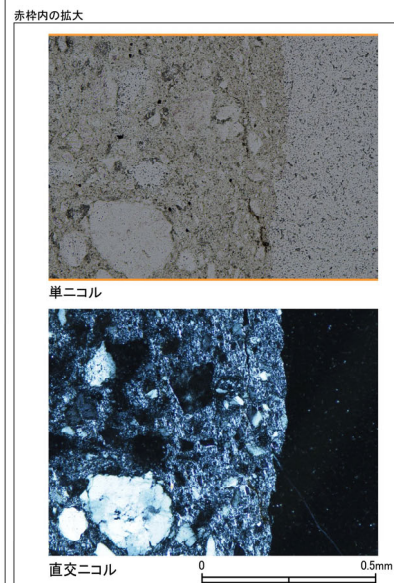
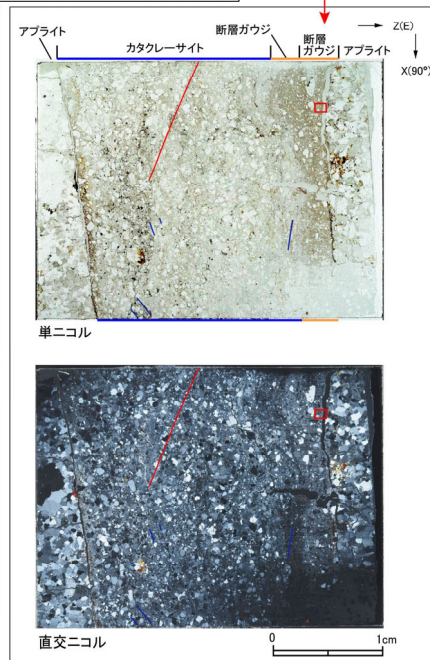
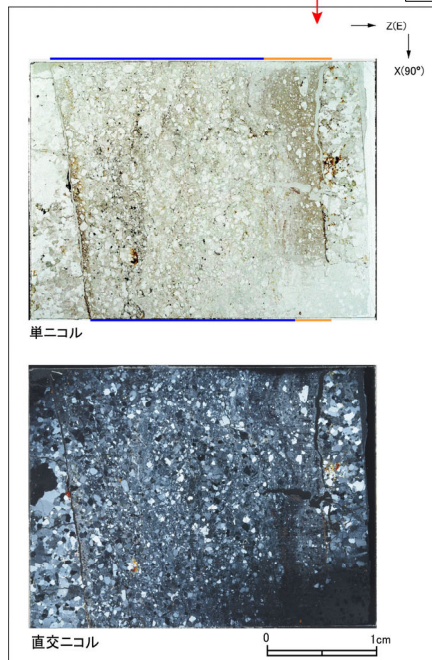
最新活動ゾーン



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



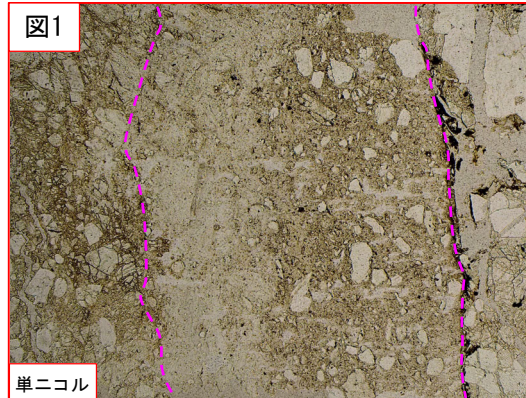
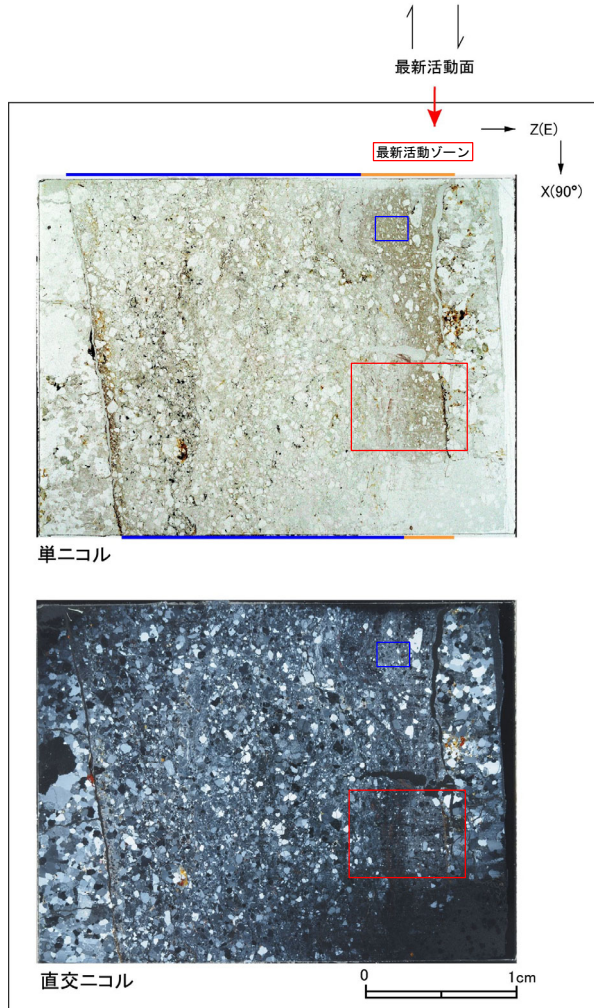
走向・傾斜 N28°E 86°E
 X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



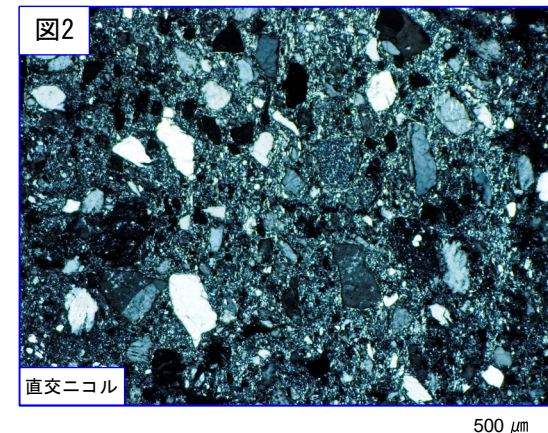
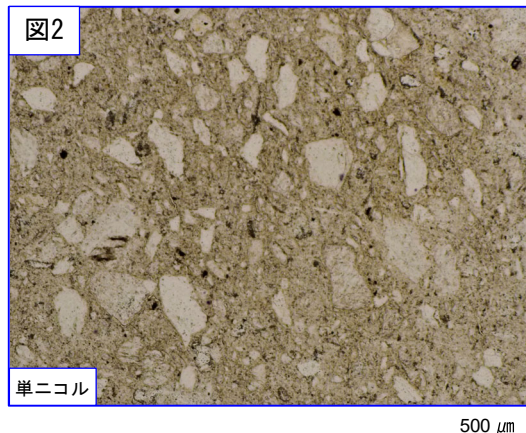
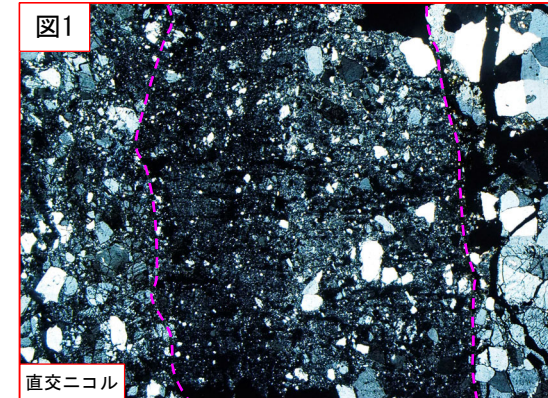
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-1 深度85.38～85.41m f-b-1-16破碎帯 (2/3)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な範囲を示す。

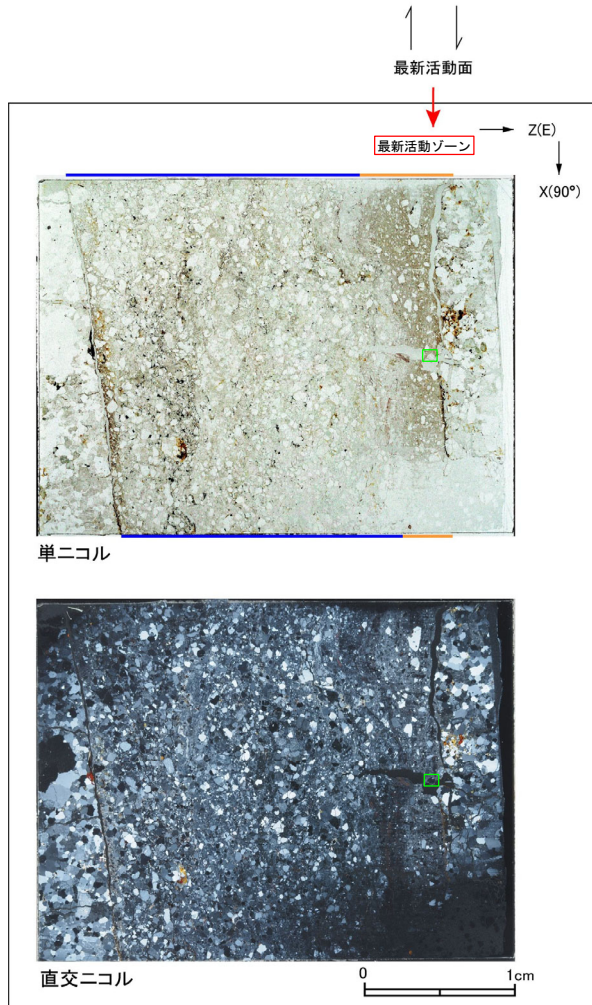


※薄片作成時に細粒部が脱落し、粘土鉱物が少なく見える箇所がある。

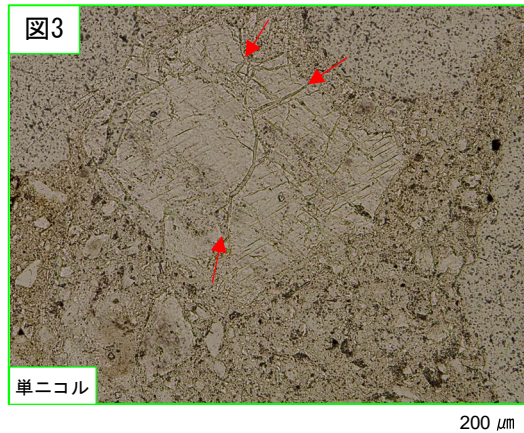
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

H27-B-1 深度85.38~85.41m f-b-1-16破碎帯 (3/3)

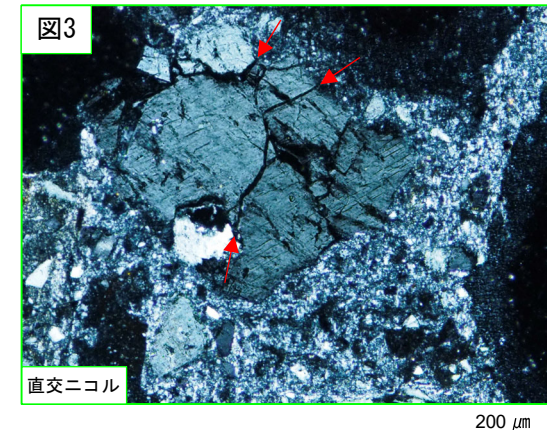
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

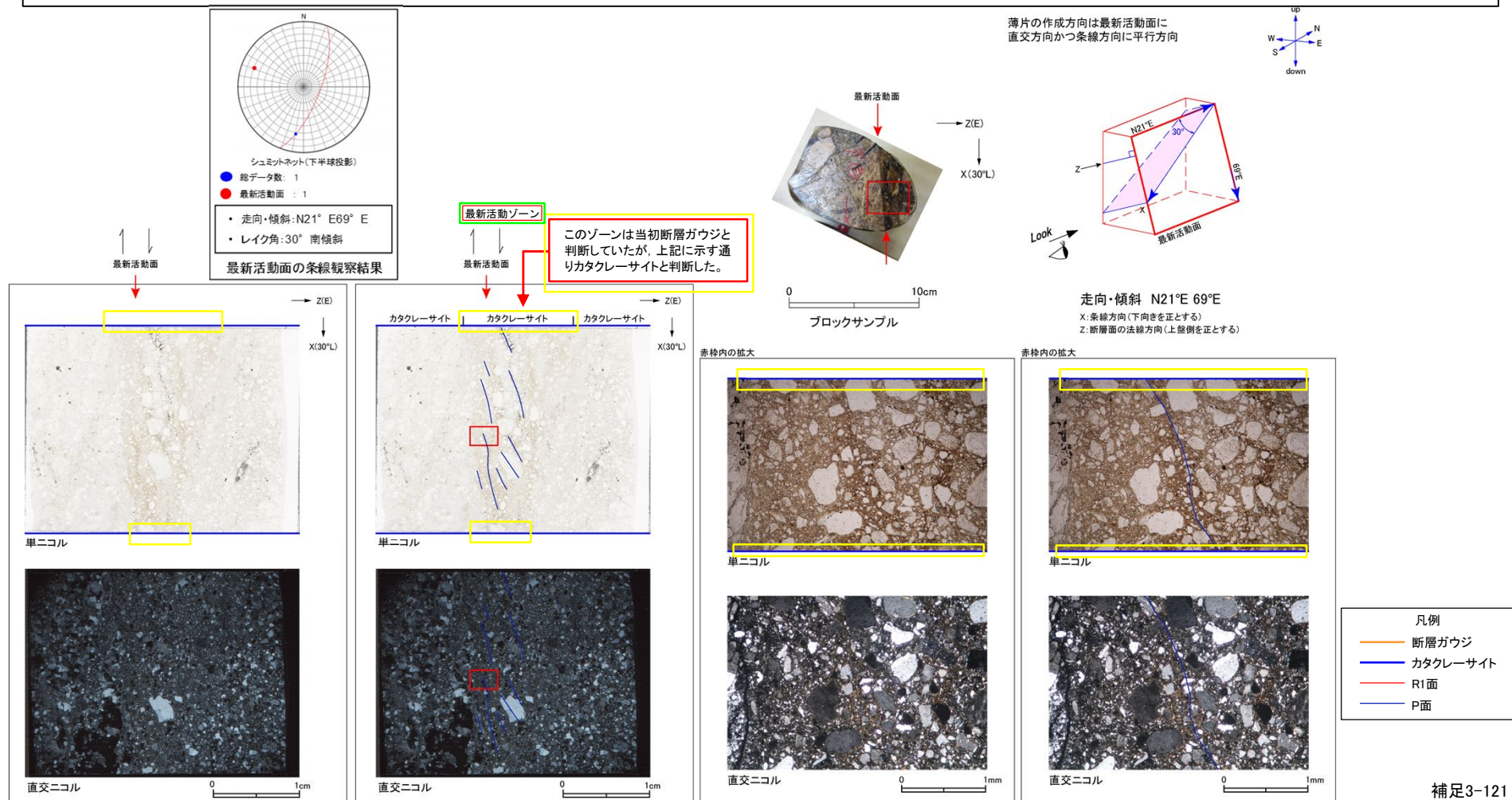


赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。



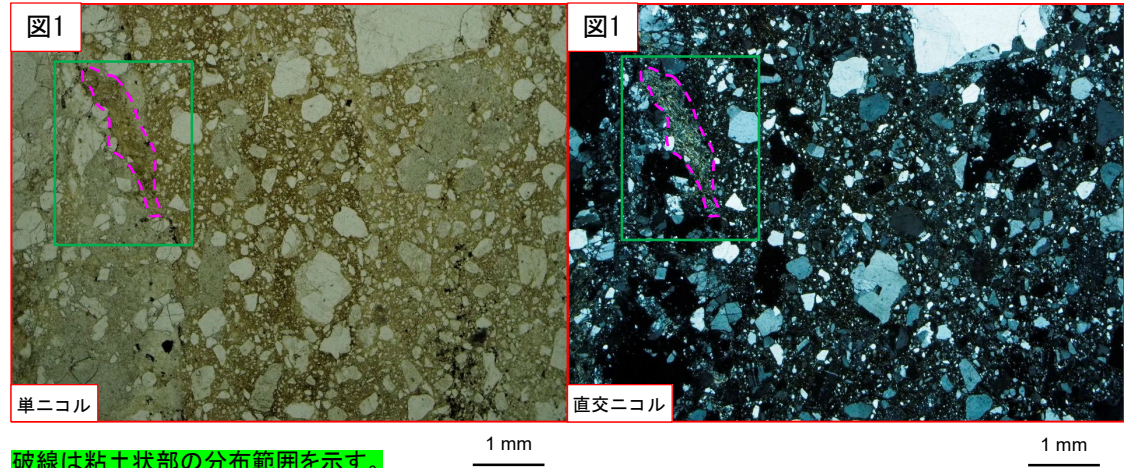
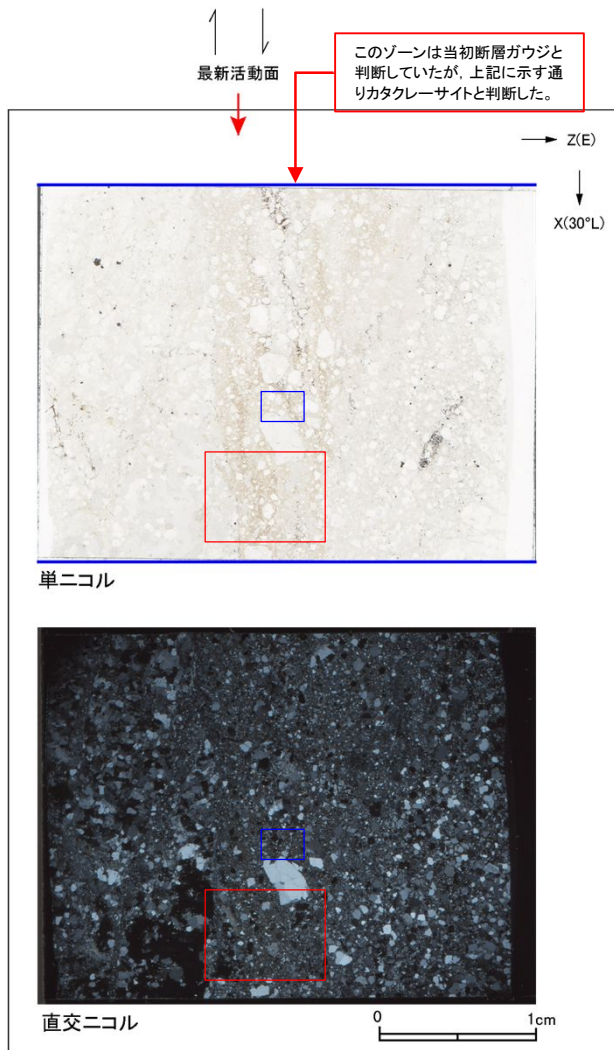
H27-B-1 深度113.51~113.60m 非モデル化破砕部 (1/2)

- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度113.56m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- ・断層岩区分については、単ニコルで明瞭に区別できるゾーンのうち、最新活動ゾーンはより細粒であり、局所的ではあるが幅3mm程度の範囲で粘土鉱物が若干認められることから、断層ガウジと判断していた。(第833回 机上配布資料1)
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- シングソー状の角礫群が認められる。

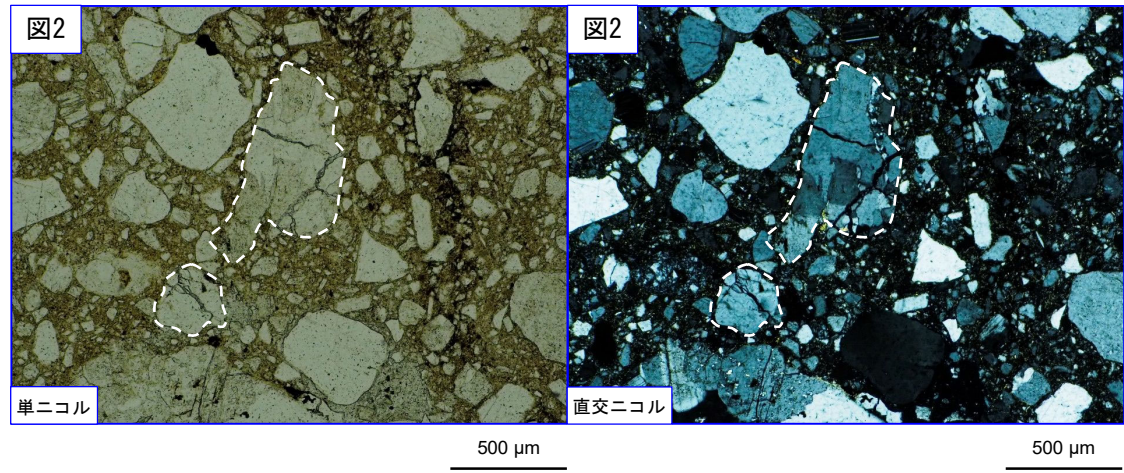


H27-B-1 深度113.51~113.60m 非モデル化破碎部(2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



破線は粘土状部の分布範囲を示す。



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト